



江戸名所図會  
六

西垣文庫  
文庫10  
6556  
6





丈廣10  
6556  
6



本牧十二天宮 本牧の塙はありて真言宗多聞院別當奉祀

も祭神ハ十二天神躰ハ海上出現と云尤佳景の地なり神

奈川の臺より眺望もみ所の絶壁ハもあつり此社の右に

裏手ハ聳立もみ所の巨巖ころりつと巖頭数株の松梅

鬱蒼と云々栄茂せり

本牧の地ハ川田原北条家の分限帳に左侍の  
大領由んを云々此地にハ百世文同橋本

吾妻明神社同所六町斗南の方原宿といふあり相傳ふ

天和年間此地の獵人吉老夫といふもの此海上に網を投

し當社の神躰を得と云

宮建と云此神躰ハもや南總亦更津吾妻明神の神

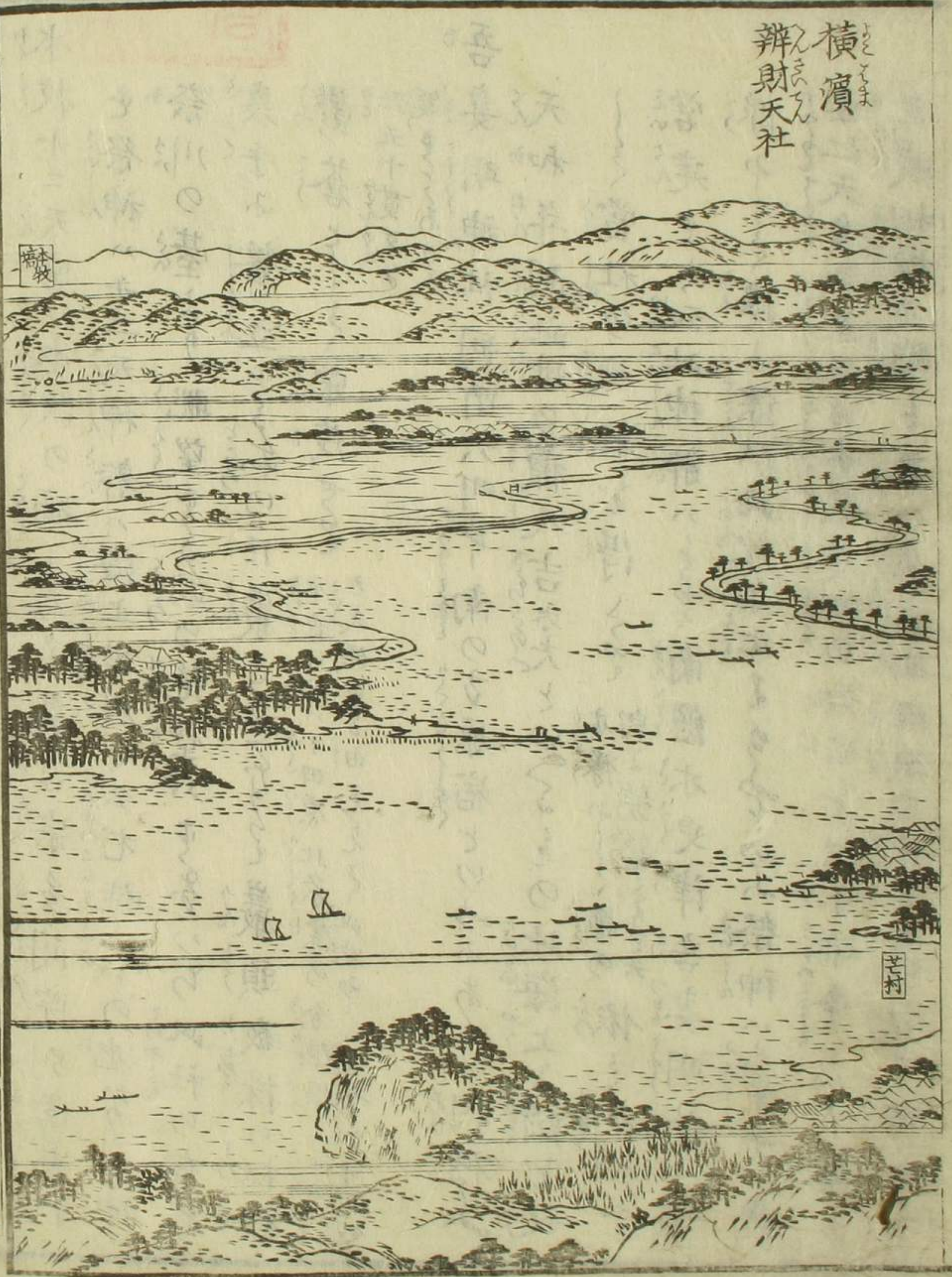
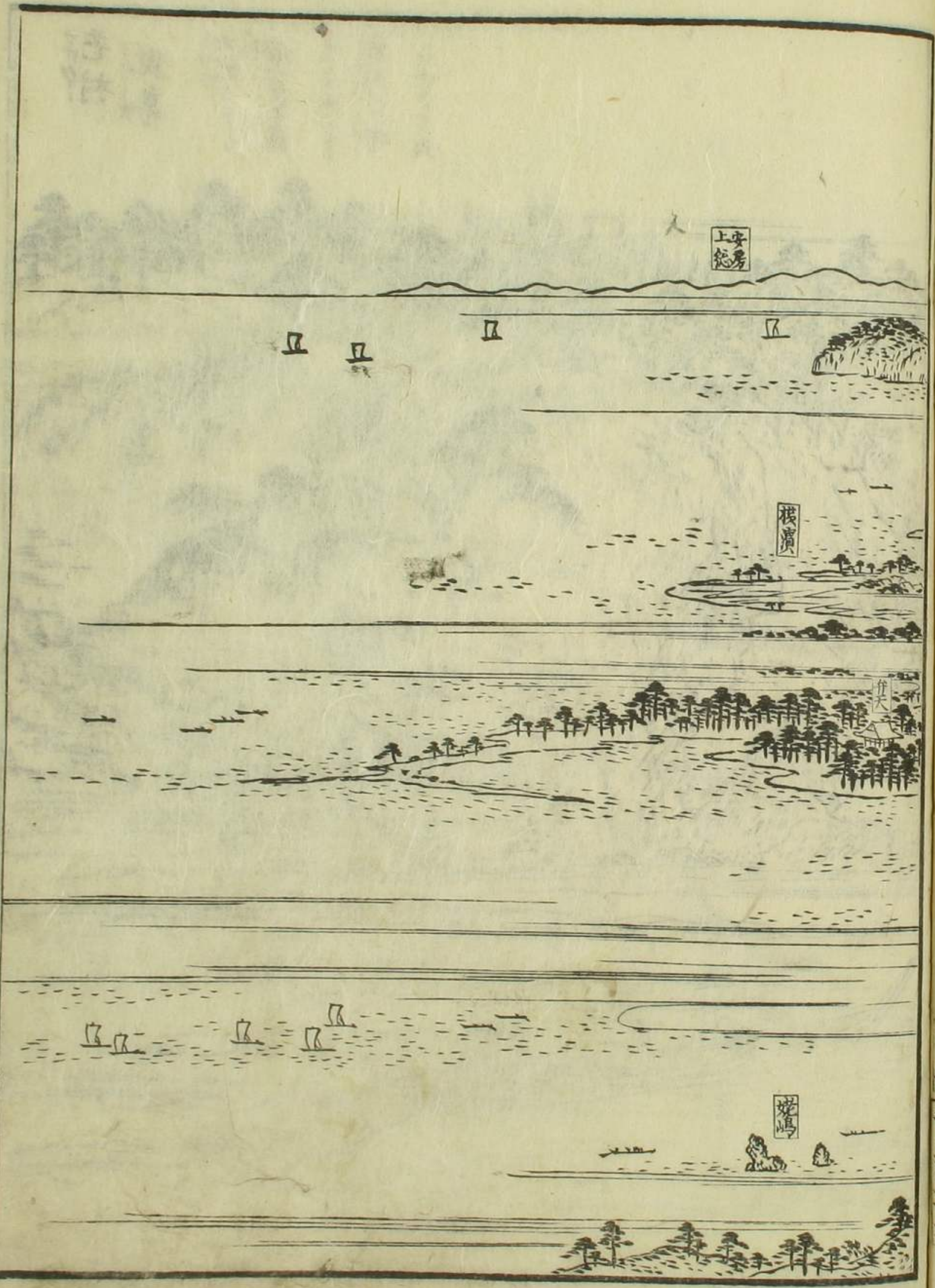
像や云浪に漂ひ此地に止まるといふ祭神ハ人皇十一代

垂仁天皇の皇子日本武尊初の御名と云小碓命と云奉る

武藏相模の際と尊の東征御經過の地と云を以て所々

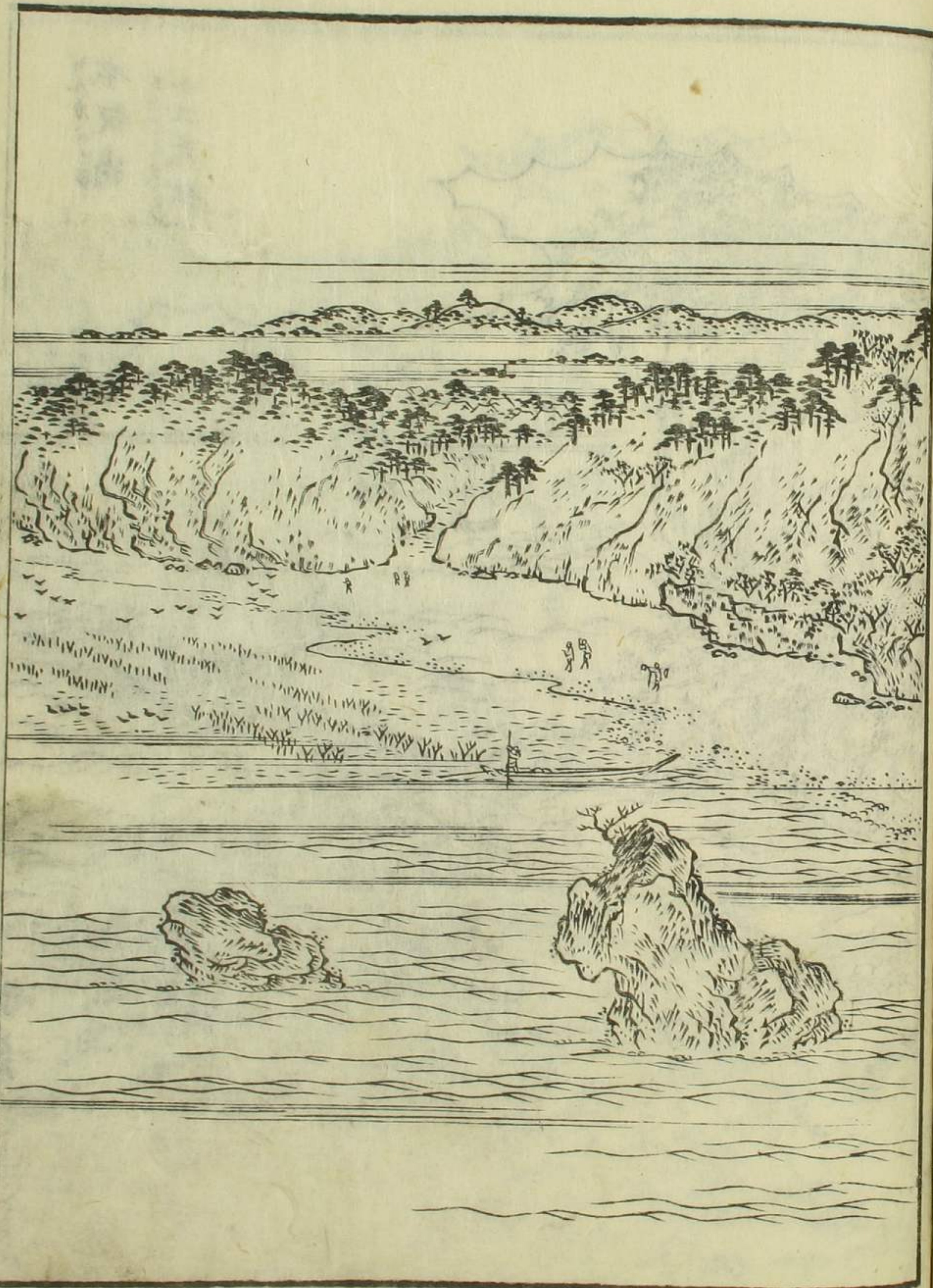






六冊  
二百二十九





芒村  
焼島  
此地より  
海苔を産  
まるとも  
司川が増  
らすと云





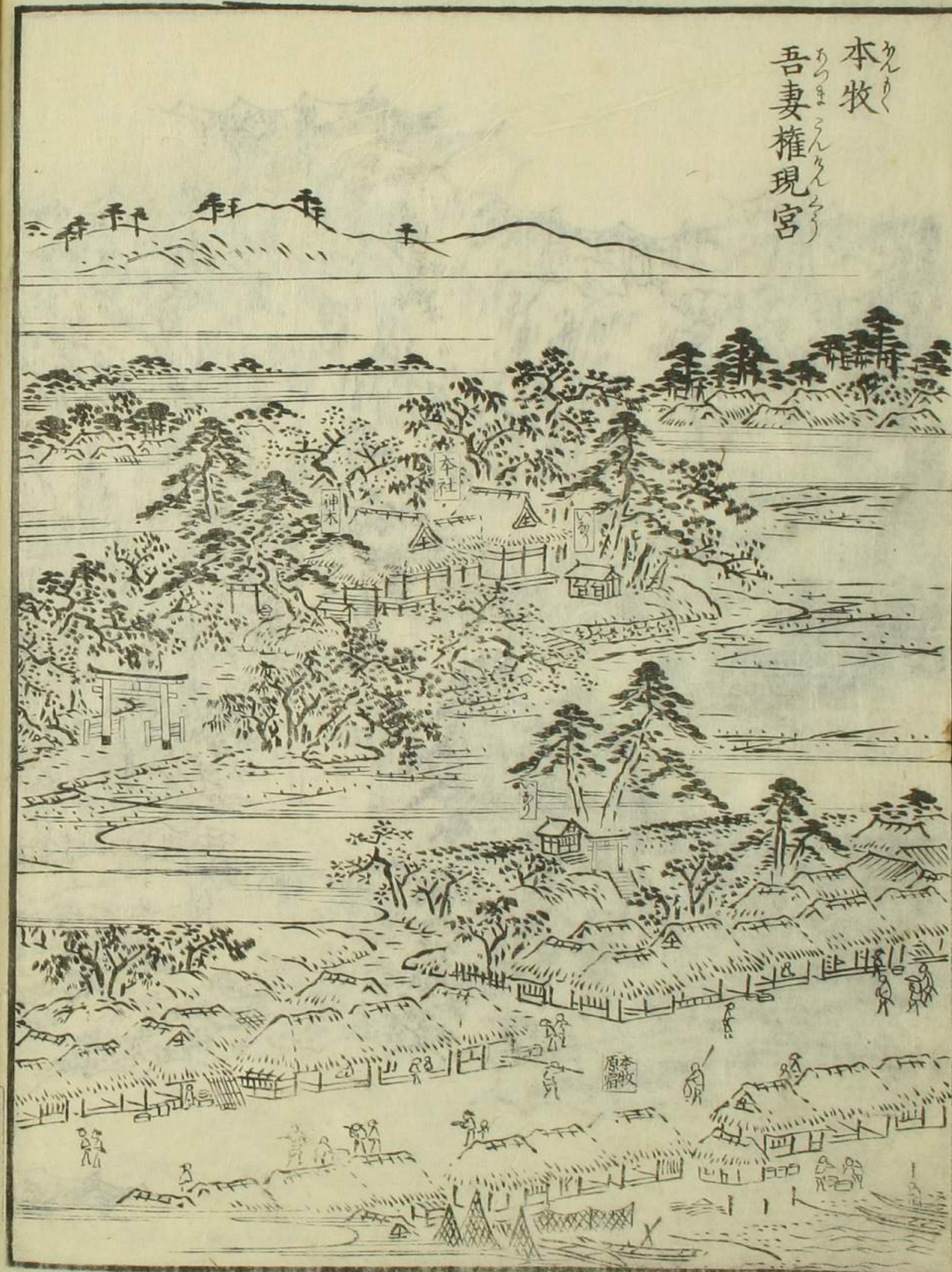


二一四

かんりのまか  
本牧場  
ちのふてんやう  
十二天社











本牧の地の  
神奈川澤の  
南に續きて  
海上に鋭き  
一方の系地  
として勝區  
探る人あり  
乃とあふ取  
又へり按ぢ  
本牧の系地  
昔時牧馬の  
うりあふの  
ありの今  
海利魚鹽の  
あり漁人の  
あふ魚とて  
澤路及び東  
市少運輸  
需ぐるべ

需ぐるべ

奉祀して千歳御神威を仰ぎ奉るも鎮護國家の盛功未  
代よ及びり山人の故あるべし  
詳なる事ハ本所吾儒森の  
下に出るゆきよに器せり

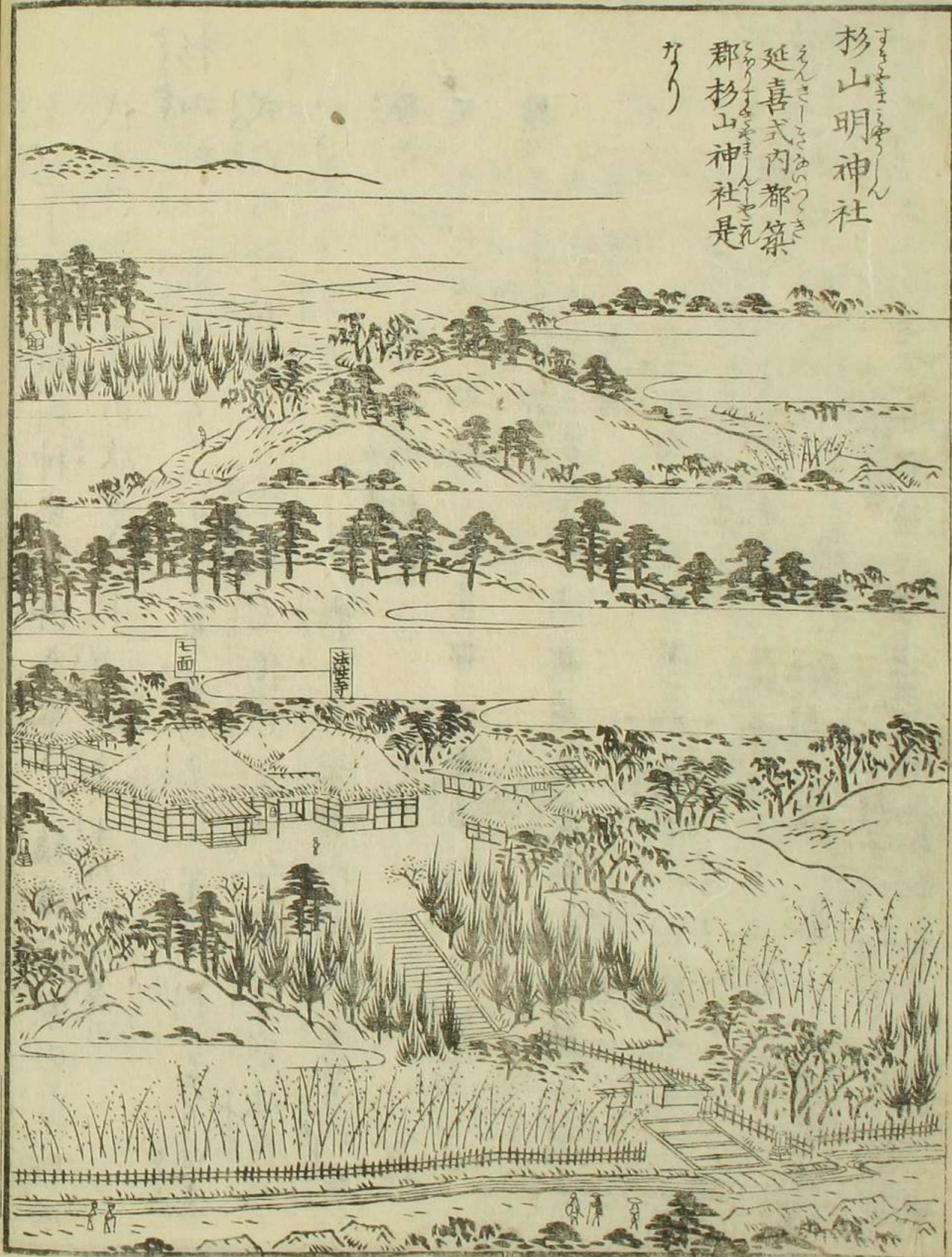
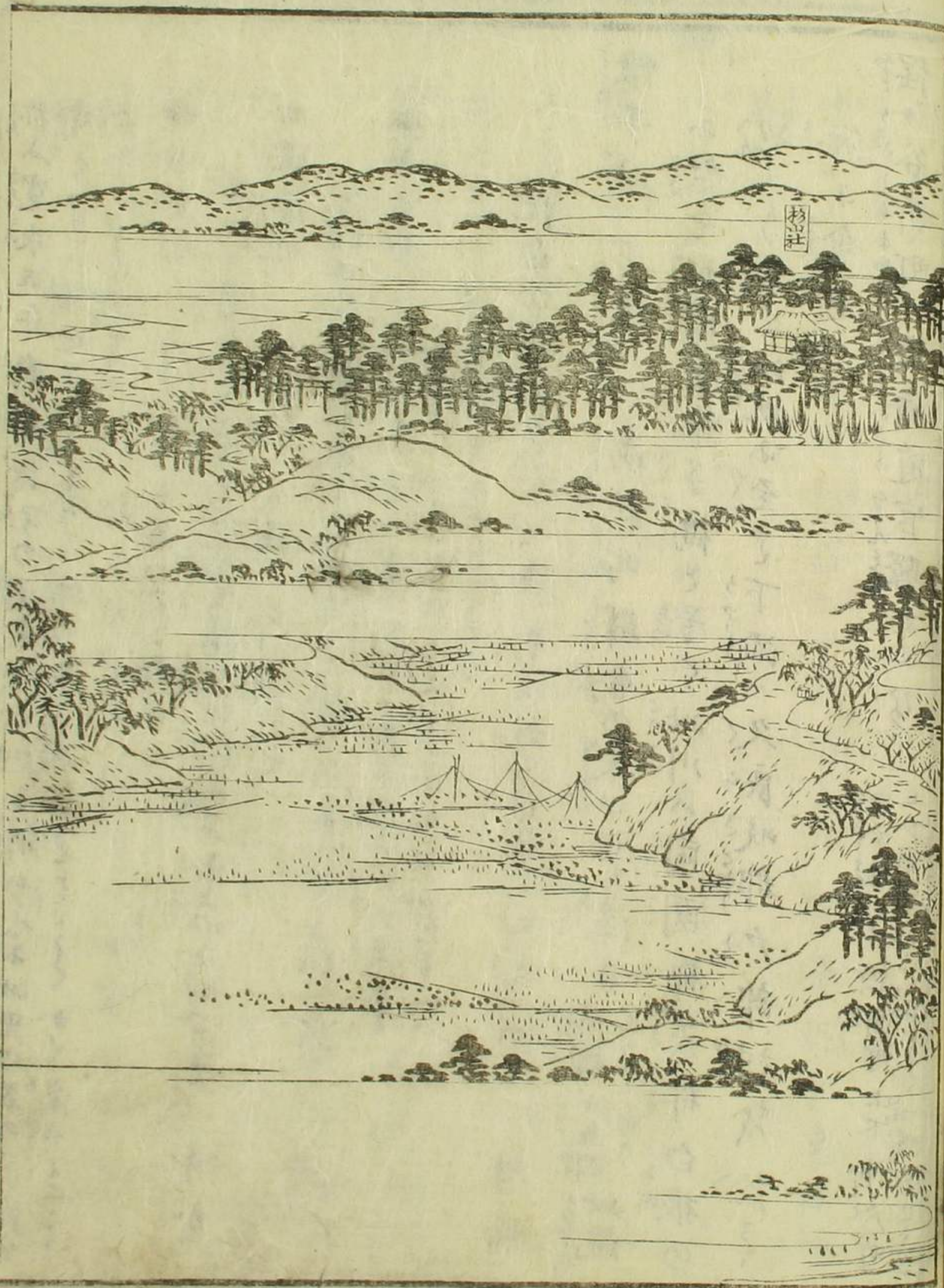
杉山神社 新町より八町あり北の方下星川村あり延喜  
式内の神社や々々靈蹤尤揭然たり今日蓮宗法性寺と  
いふあり兼帯奉祀して釋迦如来を本地佛とせり例祭ハ  
毎年六月十四日と修行也

延喜式神名帳曰 都築郡一座小  
續 杉山神社 日本後紀第七曰  
美和五年二月庚戌武藏國都築郡扮山神社預之  
同 官幣以靈驗  
書曰 十五年五月庚辰奉授武藏國无位杉山名神從  
五位下

按小判本の續日本後紀扮山と作るを誤なり

惟子里 芝生の南に並み往古ハ宿驛の名なりしや今ハ程谷  
驛に加へりしと小地名とあるなり  
此所を下惟子と名け岩間  
神戶の南にあるを上惟子也





杉山明神社  
 延喜式内都築  
 郡杉山神社是  
 なり



新入寛永五年齊藤藤徳元の関東下向記に所の人小此里の若のつれを尋ねし海辺ありあり浦のありふなりとてかく名付たりと云へり記せり

平安紀行 かきむと若つる所あり

日ゆらまはかきむと若つる所あり旅人の汗ふあるかきむの里 持資

田國雜記

つゆきさう旅の衣とてまーゆらまはかきむの里 道奥 准后

鎌倉記行

かこの里のこまきよりたふつるをゆらまはかきむの里に

地白ありまのたふつるをゆらまはかきむの里 澤庵

帷子川 下帷子の南新町驛舎の入口と流る 川幅十五間此流

小架を枝橋と帷子橋と号く此川ハ同國都築郡白根の

辺よりゆき此地ハ至る下流ハ久良岐郡戸部村に径る

海小會を

程ヶ谷新町 東海道官驛の一なり 帷子町上下岩間町上下神戸町上下岩間の地を合せし驛とせし

或ハ慶長或ハ慶安二年治年間ともこの地を背ハ小架ハ一里あり

神奈川 此地迄行程二里九町あり 驛亭軒と連糸繫

昌の地

神戸川 神戸と上帷子との間の小川あり長二間あり此板

橋を架し新町と号く水原ハ田間の水落集りて流

きと成り新町より右の裏と流き此地ハ至る末ハ神戸岩

間の左の裏と回り帷子川ハ入

大神宮 神戸の地小あり街道の右側ハ鳥居を建侍大門

三丁あまりを入り社あり神主岡田氏奉祀を祭礼ハ六月

九月西月の十六日あり九月を大祭の辰とて相傳ふ往古

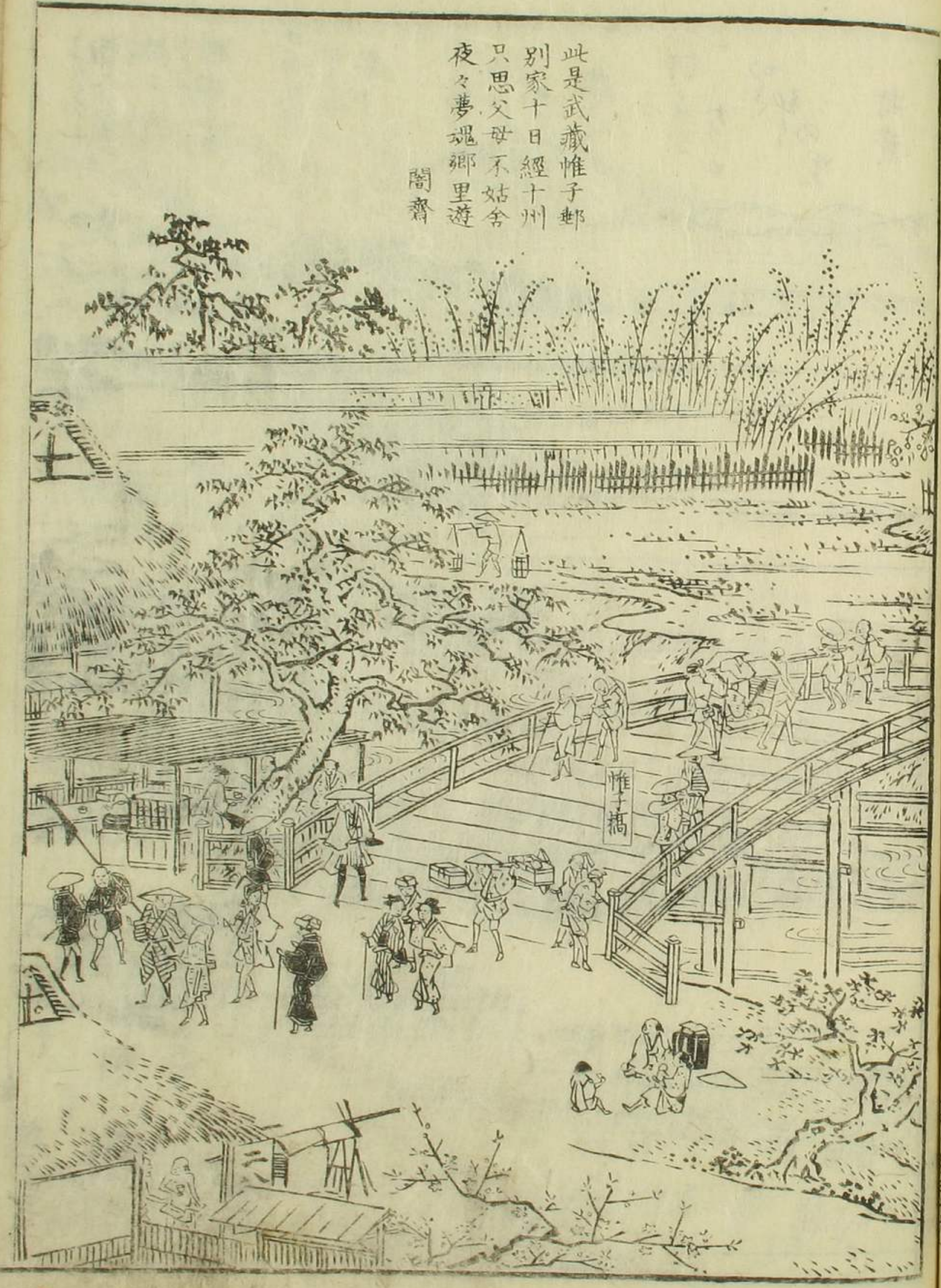
當社の御神武州御厨庄榛谷峯ハ影向なりあひりて

後世川井二股川程ヶ谷宮林同所八坂等の地へ迂り

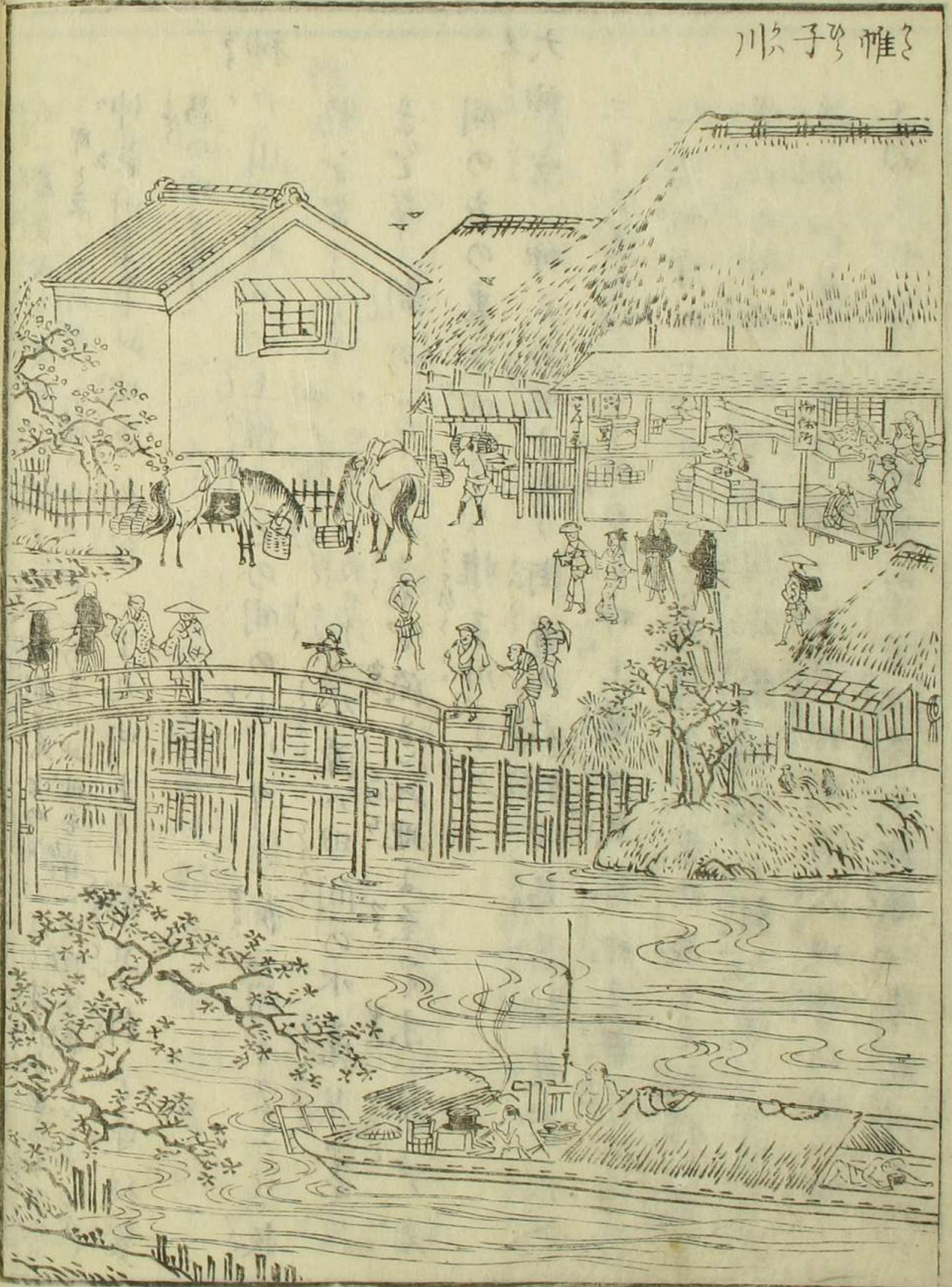
まゆせり神託あるを以終る嘉祿二年九月十六日



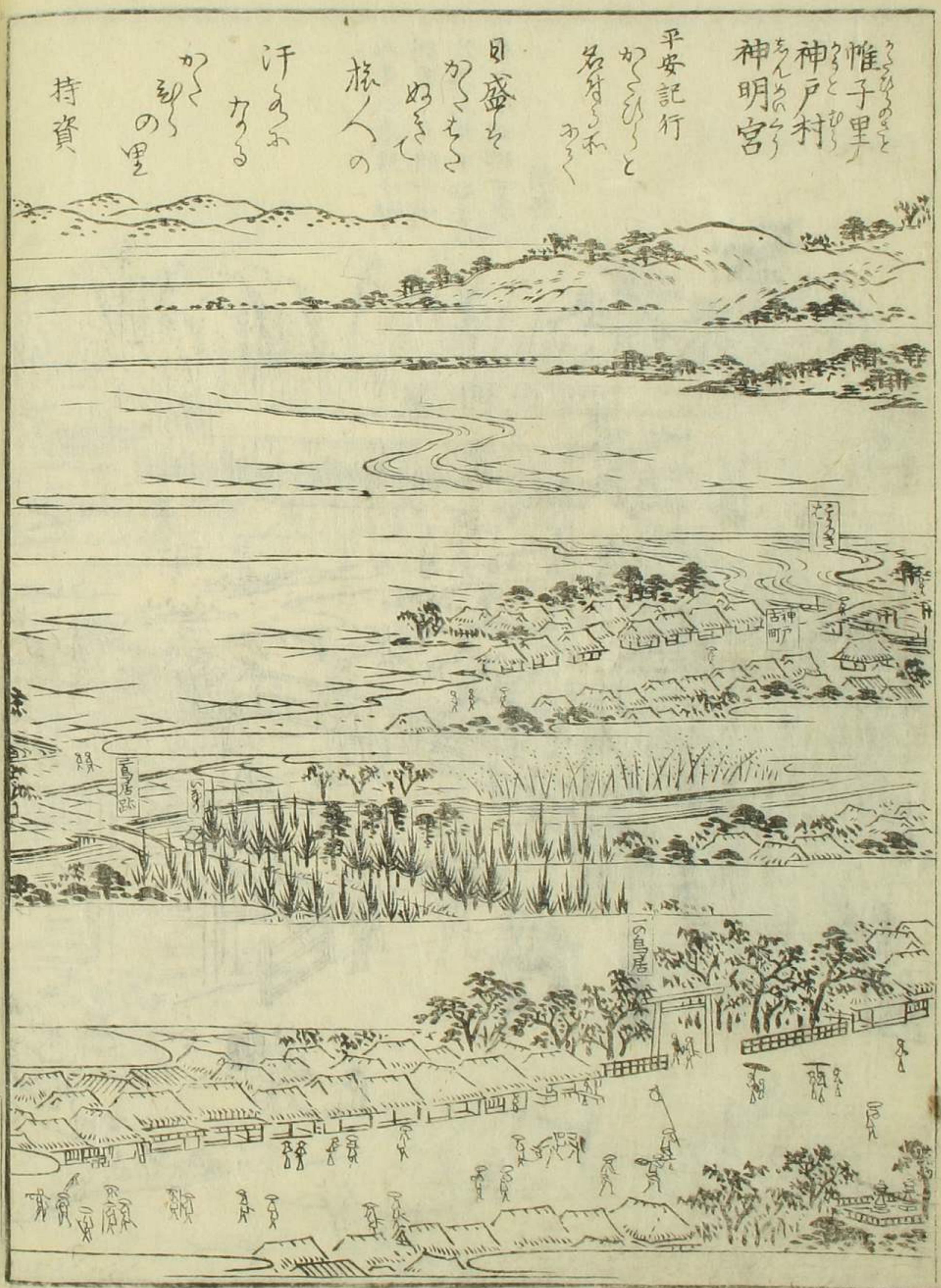
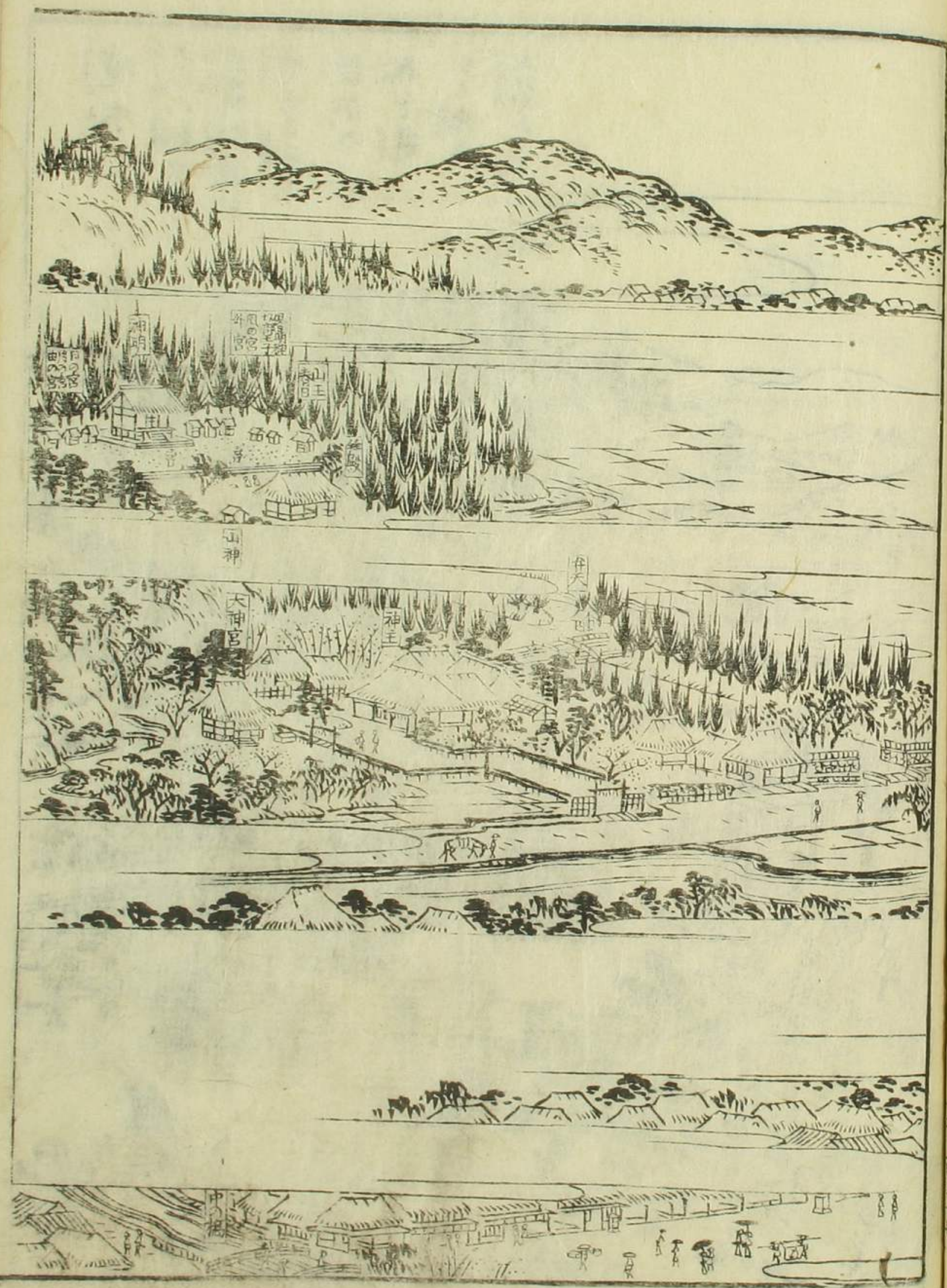
此是武藏惟子郵  
 別家十日經十州  
 只思父母不姑舍  
 夜々夢魂鄉里遊  
 蘭齋



惟子川



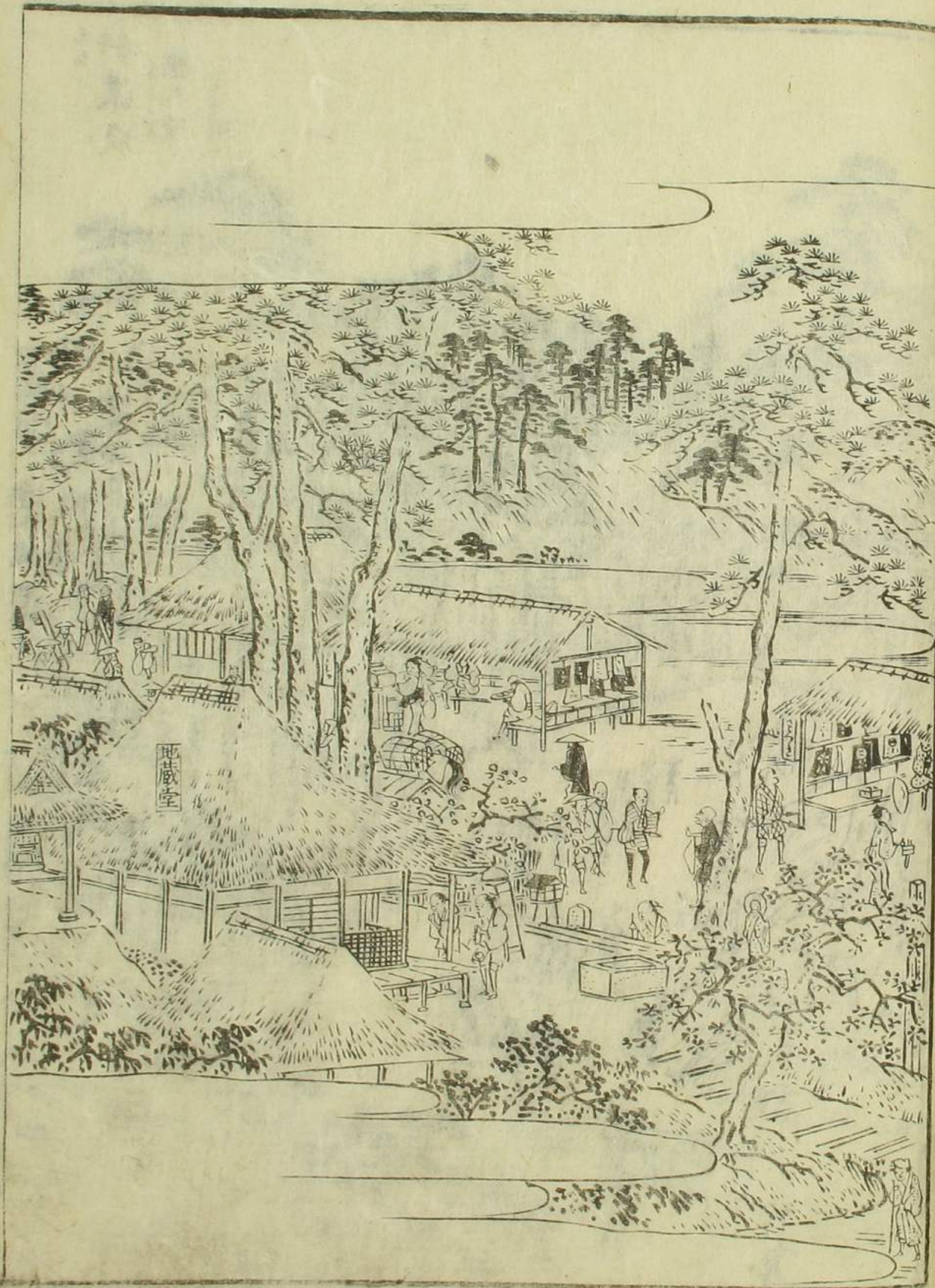




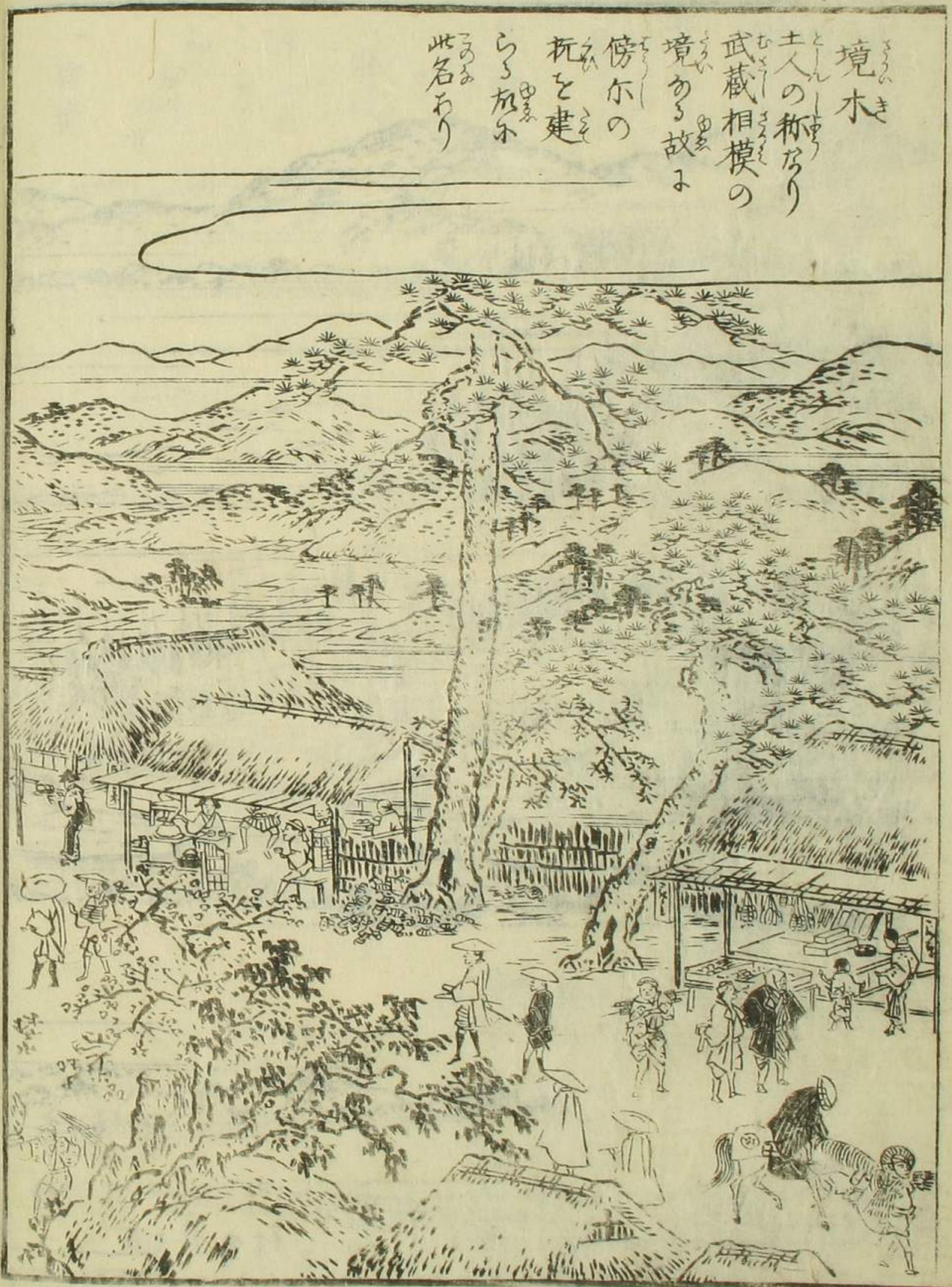
平安記行  
 名符の  
 日盛を  
 かち  
 ね  
 旅人の  
 汗を  
 かわ  
 持資

帷子里  
 神戸村  
 神明宮





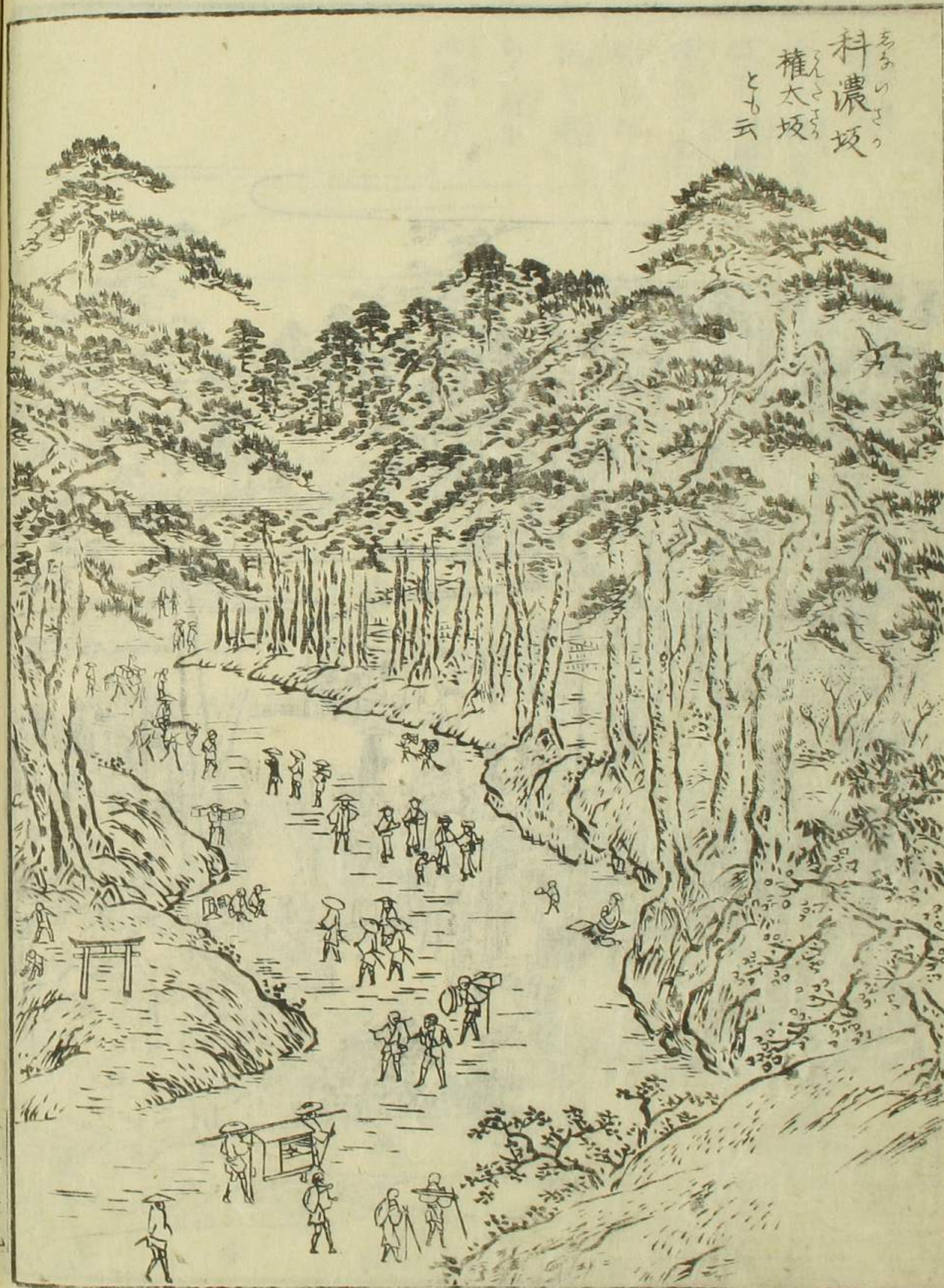
境水  
 土人の称なり  
 武蔵相模の  
 境あり故に  
 傍尔の  
 柁を建  
 らしめ  
 らしめ  
 此名あり







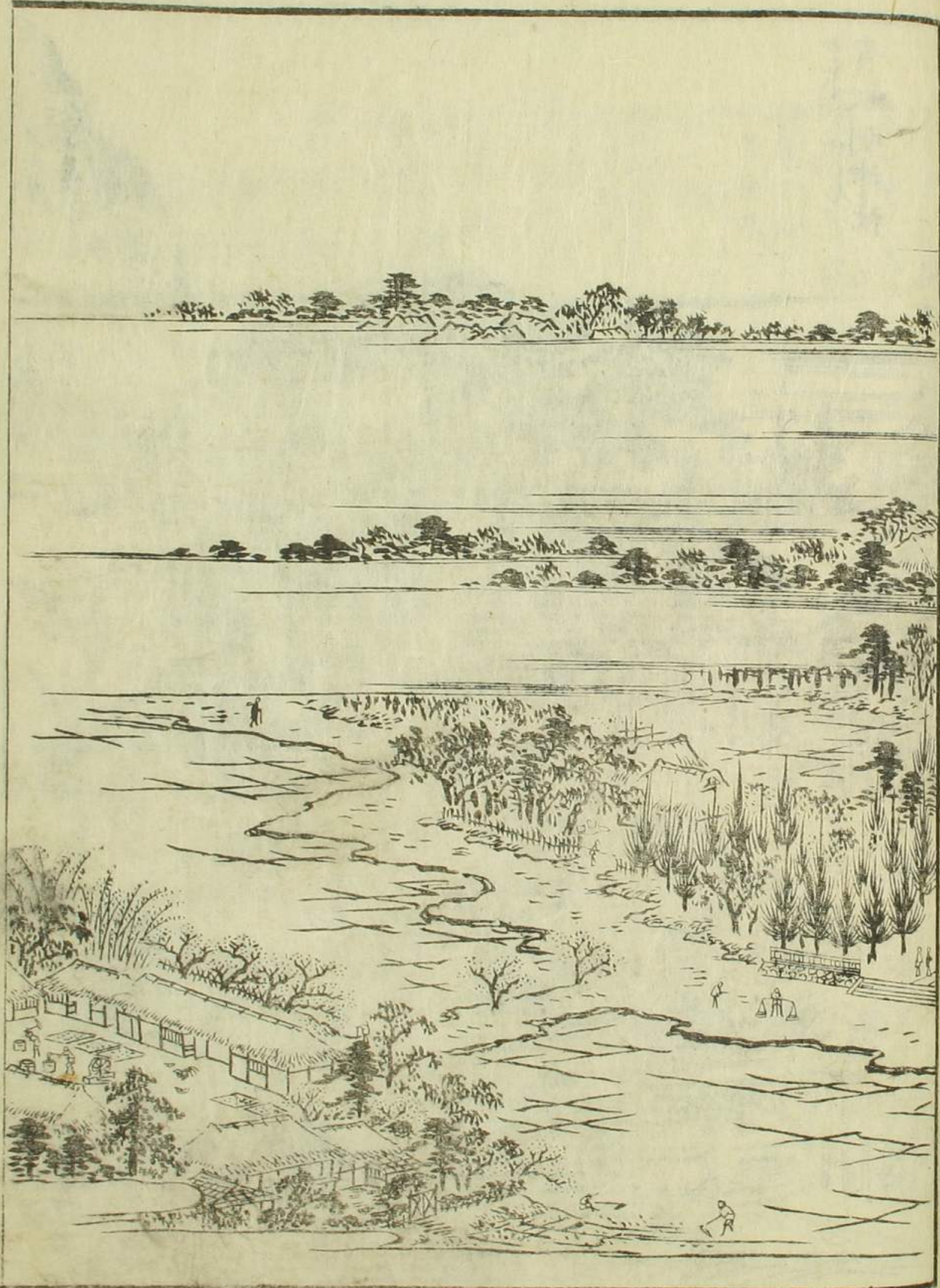
あまのさの  
科濃坂  
権太坂  
とも云











東蓮寺  
二位禪尼影堂  
住吉明神社





青水明神社



二位禪尼影堂

井戸ヶ谷村東蓮寺と云

西光山と号し古義真言宗石川室生寺に属す

二年米章をぬみと云

真言宗の境内佛殿の側あり相傳ふ此

地ハ禪尼分領の地也ニ公の生前自影堂

等身あり四十計の殿あり

と建く東蓮寺と号せし其後度々

兵乱の為ニ破壊せしと秀善法印勸進の功を慕ひ

十年癸酉影堂を再興せし

其の詳なるは

梁牌

書く

平政子の牌ありとのみ

福倉志如實妙觀と

梁牌銘曰

二位尼者北條四郎時政卿息女則右大将家北方

頼家實朝而公為慈頼朝公逝去後經二十六年

嘉祿元乙酉年七月十三日卒法名如實世人号尼

將軍是也并土谷卿依為尼公分領日立影堂号

乘蓮寺雖建度々為兵乱破壊今秀善法印廢

辨奉他力鎌倉二位尼御影堂一字國土安全求願成



寛永十癸酉年三月十一日

大檀那開宮産次郎忠次  
別當 兼蓮寺 秀譽

東鑑脱漏曰嘉祿元年乙酉七月十一日庚午丑刻  
二位家薨御六十歲是前右大將軍之後室二代  
將軍母儀也前漢之呂后而令執行天下給若又  
神功皇后令再生令擁護我國皇基給敷云云  
十二月辛未霽寅刻二位家御事有披露出家男女  
併之云云

按當寺梁札の銘は二位禪尼逝去の日を嘉祿元年七月十三日とを  
東鑑脱漏七月十日とをいひ證とすべし

瑞應山弘明寺 全澤通道より十四丁歩右の方へ入る弘明

寺村あり坂東順礼札所の第十四番目なり當寺は  
弘法大師開創の佛刹なり中興を光慧阿闍梨と号

古義真言宗石川室生寺に属せり毎年七月十日十二月

十八日市立く大賑はし

東鑑曰治承五年正月廿三日於武蔵國長尾寺  
并求明寺等者以僧長栄可致沙汰之旨被定下是

源家累代祈願所也云云

本堂本尊十一面觀世音菩薩 基大士一〇三禮中七彫造ありと云

佛龕背面銘曰 中興光慧阿闍梨注さるるあり

荒木作表本有横削横度十方立像堅救三世長六  
尺約六丈十一面頭果地各行基示深旨也

天満宮 本堂の内右の腰壇はあを背浪華の枝家某菅神の像一軀と

し、續と河旅客笑云く我有縁の價と求むがんとを世宝と云寺主喜躍  
し、此神像と置く辞は其の方衆僧若氏其に開此地ありと崇め  
神と稱し和奇のふあく大は感應をゆきを因る神恩を謝しむるありに  
神殿造營せしむ

額 瑞應山弘明寺

本堂の向拜と掲る

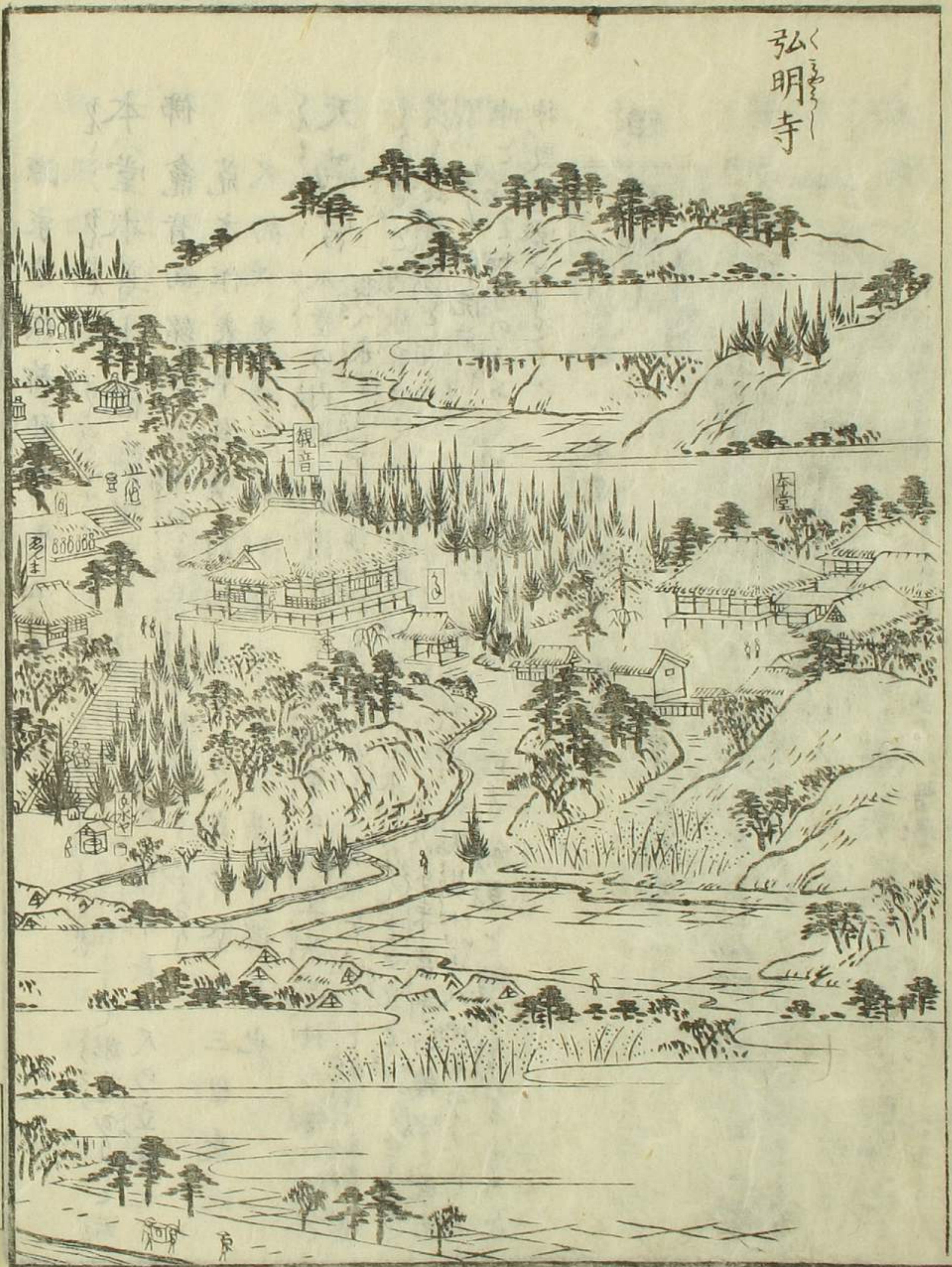
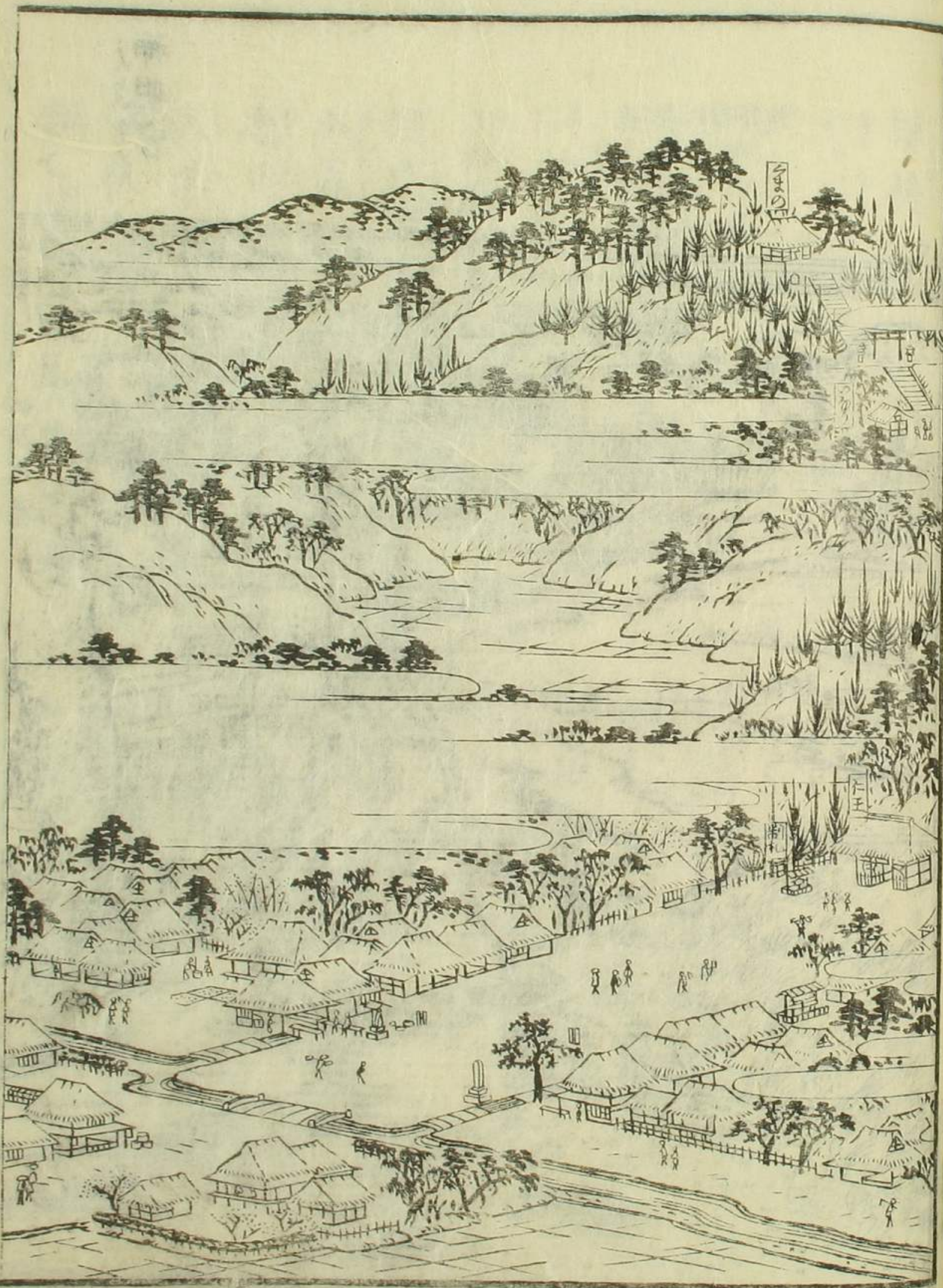
大角信勝筆

熊野推現祠 本堂の左の方此山はあを往古行基大士此地に至るあり時

鳥小乗まの熊野推現と起る神靈と祀る其白狐は踏るものと指荷と一靈

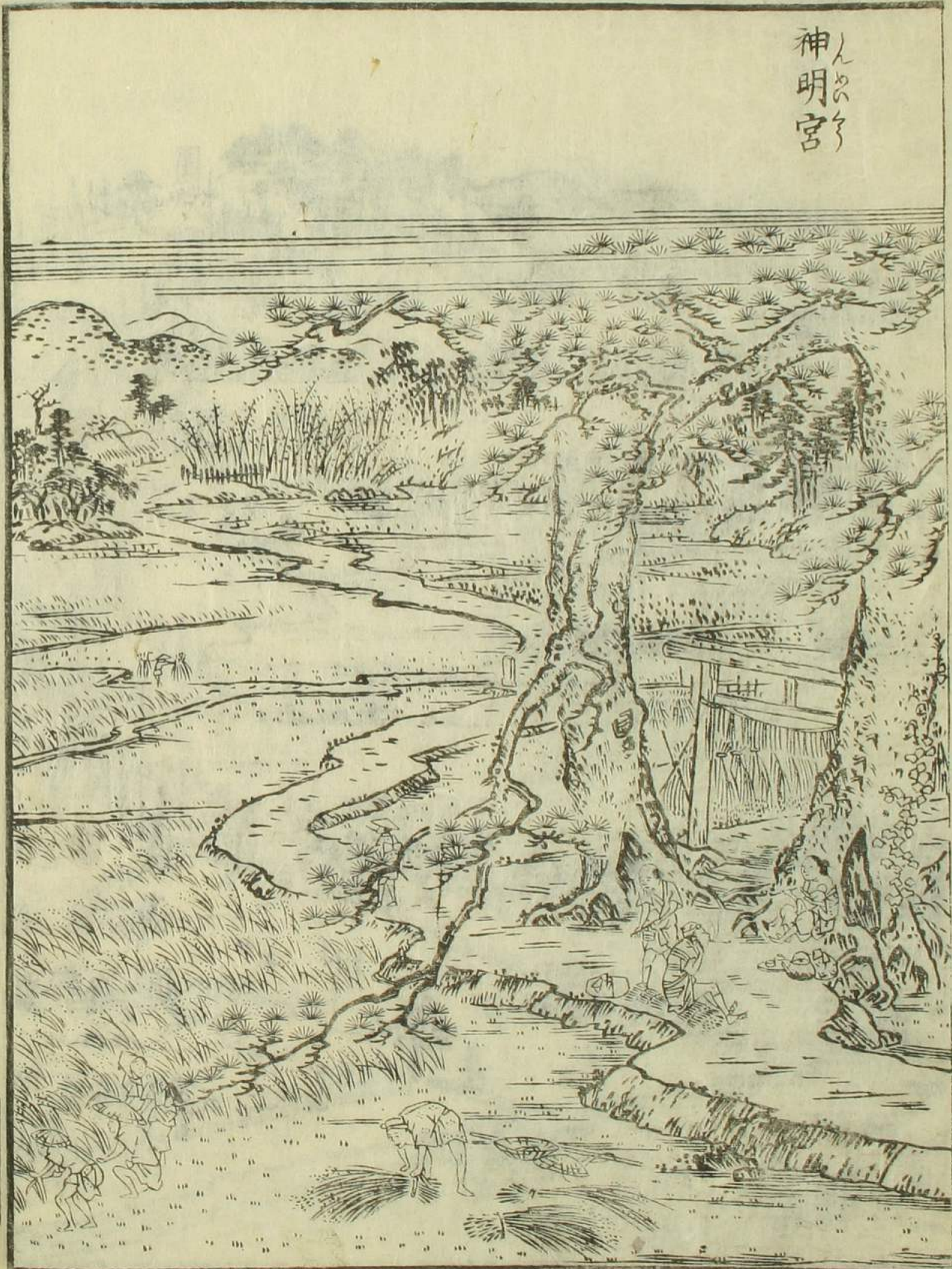
麻耳山 熊野阿闍梨の起る土俗興の院と号し往古弘法大師勤修の地と







神明宮



鯨鐘

堂前右の坊の土より鐘あり弘安九年九月廿五日鑄治のちて願主  
法印長慶といふ名を注せり今の鐘は寛政十年に改鑄せり

七ツ石

神変奇異の靈石なり自ら現れ自没する恒に其在所とありはと云  
若堂舎破壞及び修理の力をゆるする時ハ因らざるは此石現れり

然

材穀金錢等涌り幅三ツあり頻年神堂の再堂と企つてあり

同

僧喜切當寺境内に安坐尚靈石の徳

見

是靈驗集小石今二王門の傍にニツあり又最所村といふ地にも一ツを  
存し當寺末門の前耕田の中にも一ツあり共々四ツハ今從現然り其餘の所在ハ未だ

二王門

石階の下あり金剛密迹の兩像ハ運慶の作り各九尺餘その  
木像あり額ハ瑞應山と筆一ツあり佐々木玄竜の書なり

小田原北条家制札

永祿十年丁卯十月二日  
石卷彦六郎書り

同寺領寄附證文

天文二年癸巳二月十八日  
石卷勘解由左衛門書り

本尊縁起曰人皇四十五代

聖武天皇の御宇行基大士東國

遊化の頃此地に至り

空中小白蓮乱飛り山上

散墜を大士怪む

山小登り果し神人のませり一を

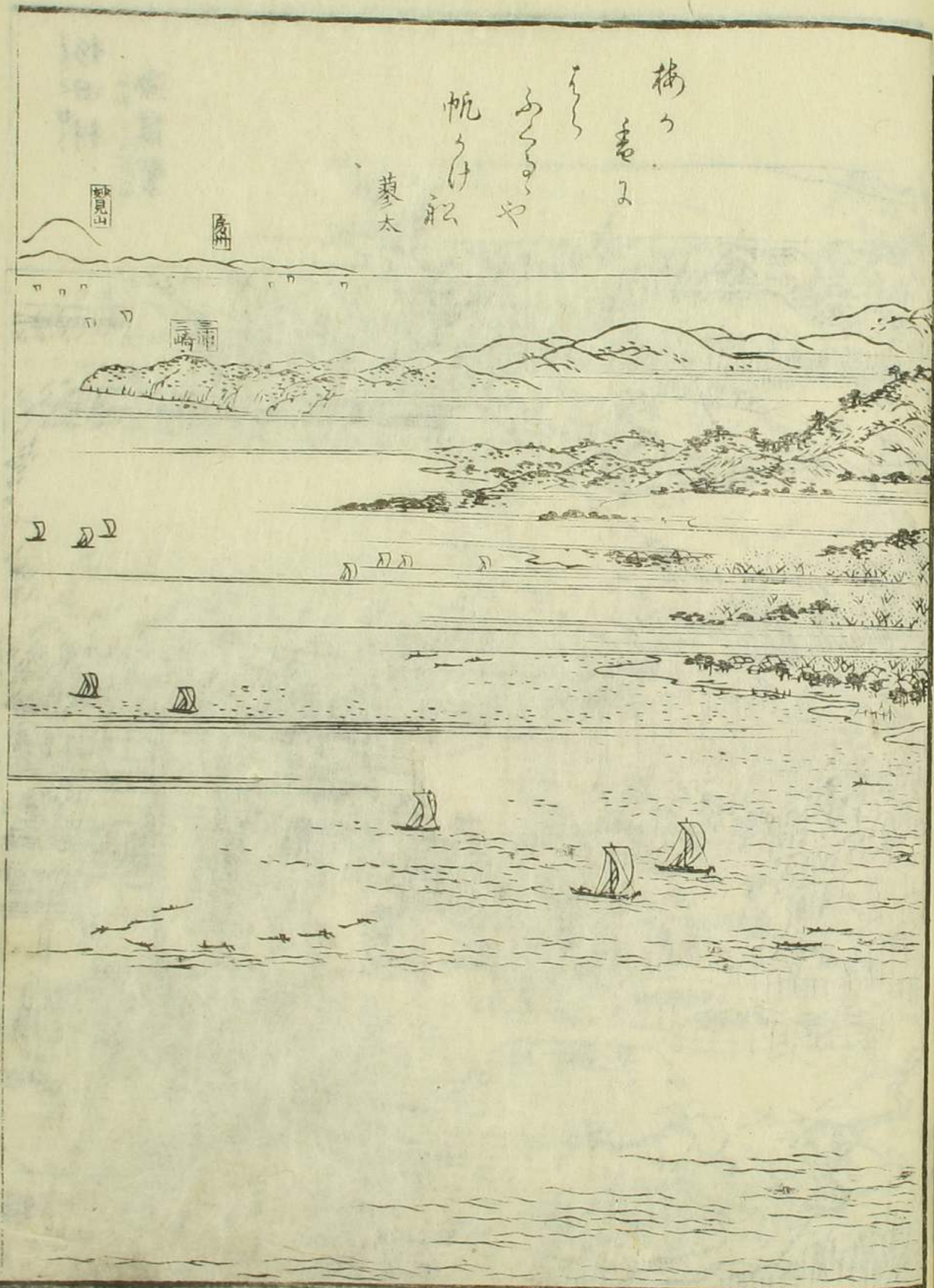
白狐に乗

一ハ靈鳥に乗を今境納は鎮座の熊野各大大士

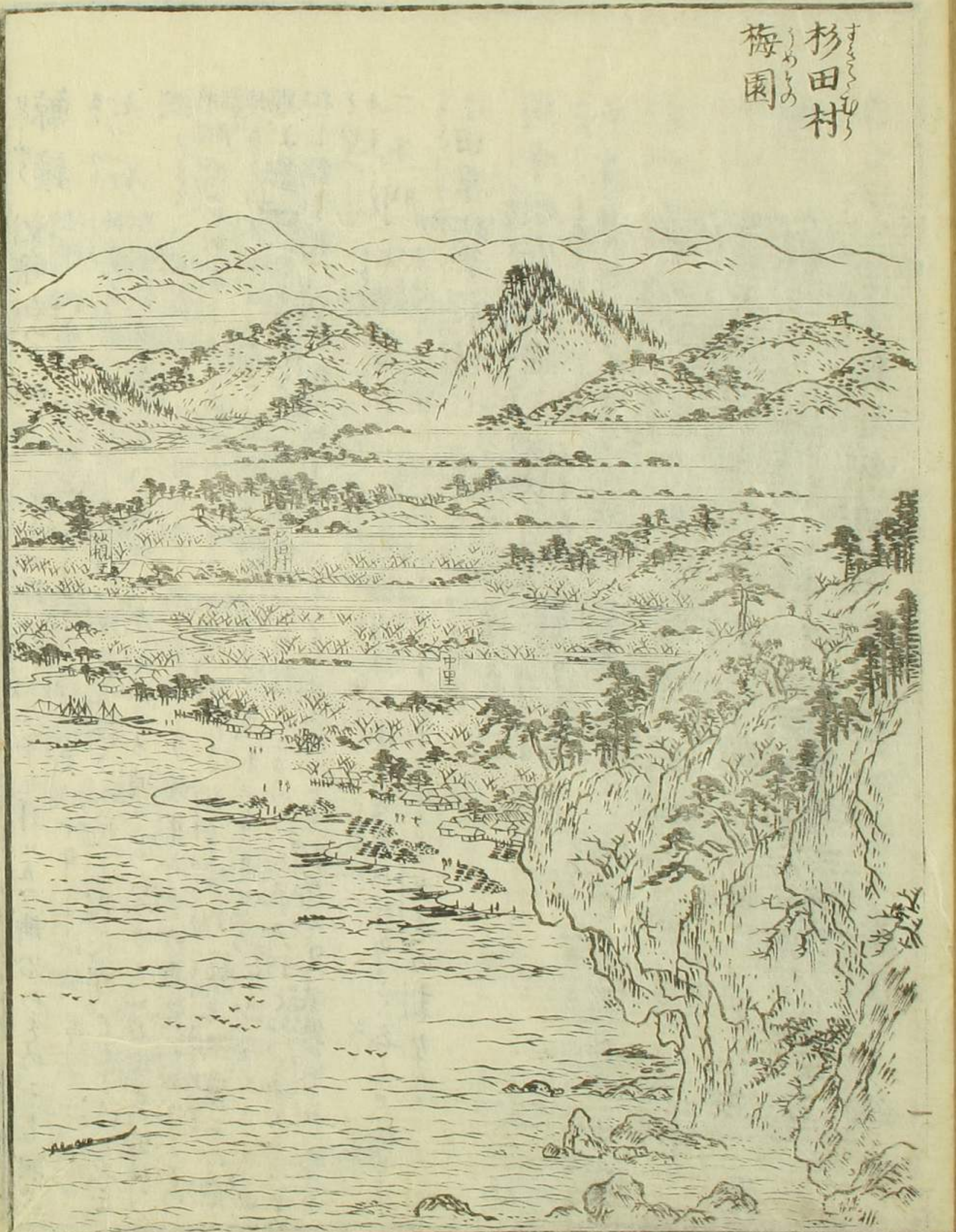
告て曰く去る養老年間

印度の善無畏三藏遠く我





杉田村  
梅園







杉田村  
海鼠製

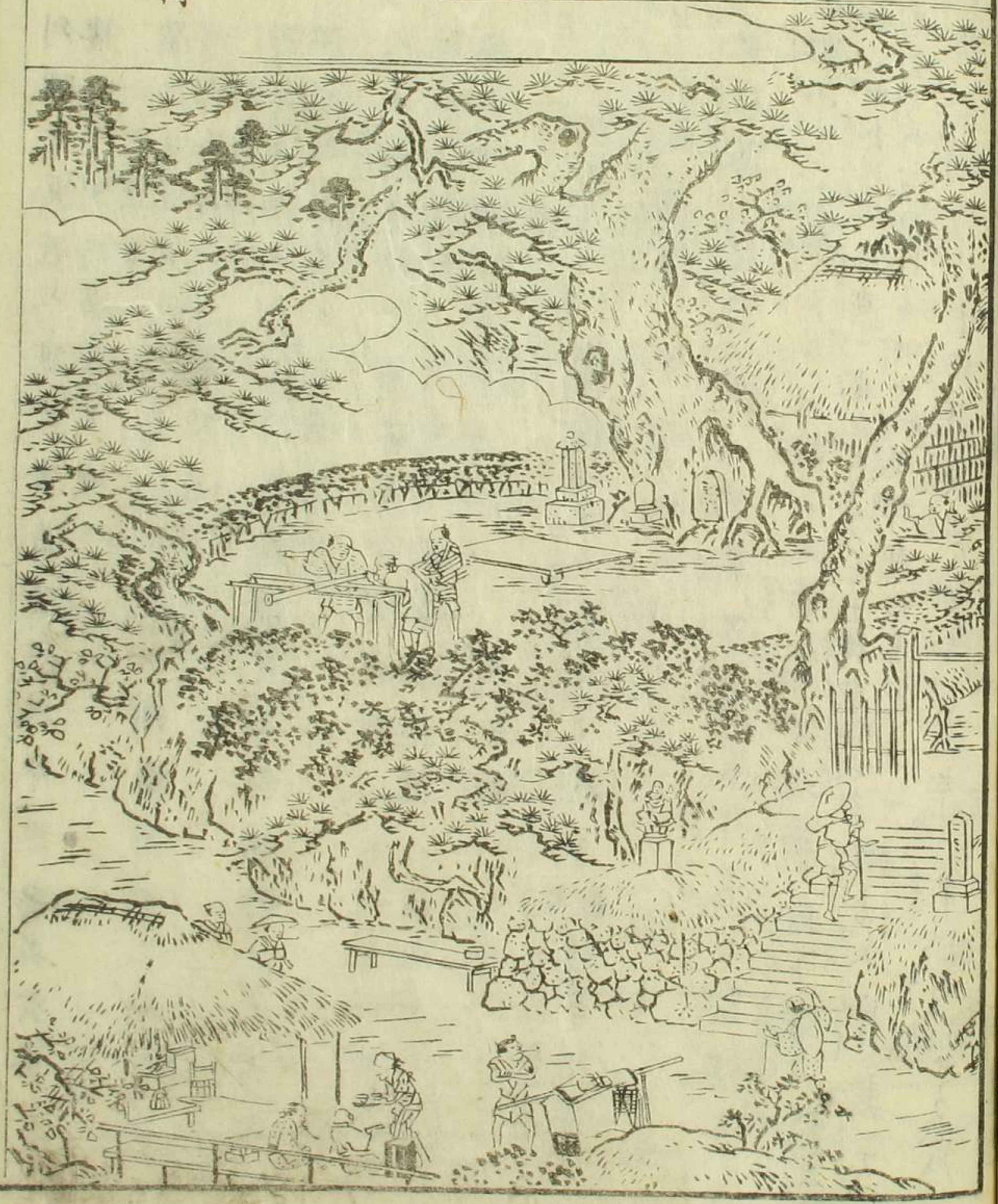


日本の土小渡を密教の機係を要むと終ふ此地未來を  
 心と止め七箇の蟠石を加持し所謂七石又其石小陀羅尼を  
 書寫し此山に鎮す結界しぬと云訖て其終方をあらひ  
 あらふ於く大士善無畏の素懐を鑑みく十一面の多像一軀を  
 彫り當寺の本又弘仁年間弘法大師此地に錫を飛し  
 無畏三藏の舊と興行基大士の跡を繼ぐ大悲者此淨  
 刹と初め伽藍安鎮の名を四臂の不動尊を作し  
 密教護神の法樂を般若心徑を書寫し人法繁榮の  
 為ふハ一十座の護摩を修し且大黑愛深哉字の宝塔  
 一基是皆大師の製しあらはし遙の後長曆の頃武相の  
 間疫癘流行し人民大小是を患ふ時小當寺中興光慧  
 阿闍梨本其小新に此疫災を除滅せしと云く  
 澤此地ハ六浦莊の内なり吉田兼好法師也此地に住れ

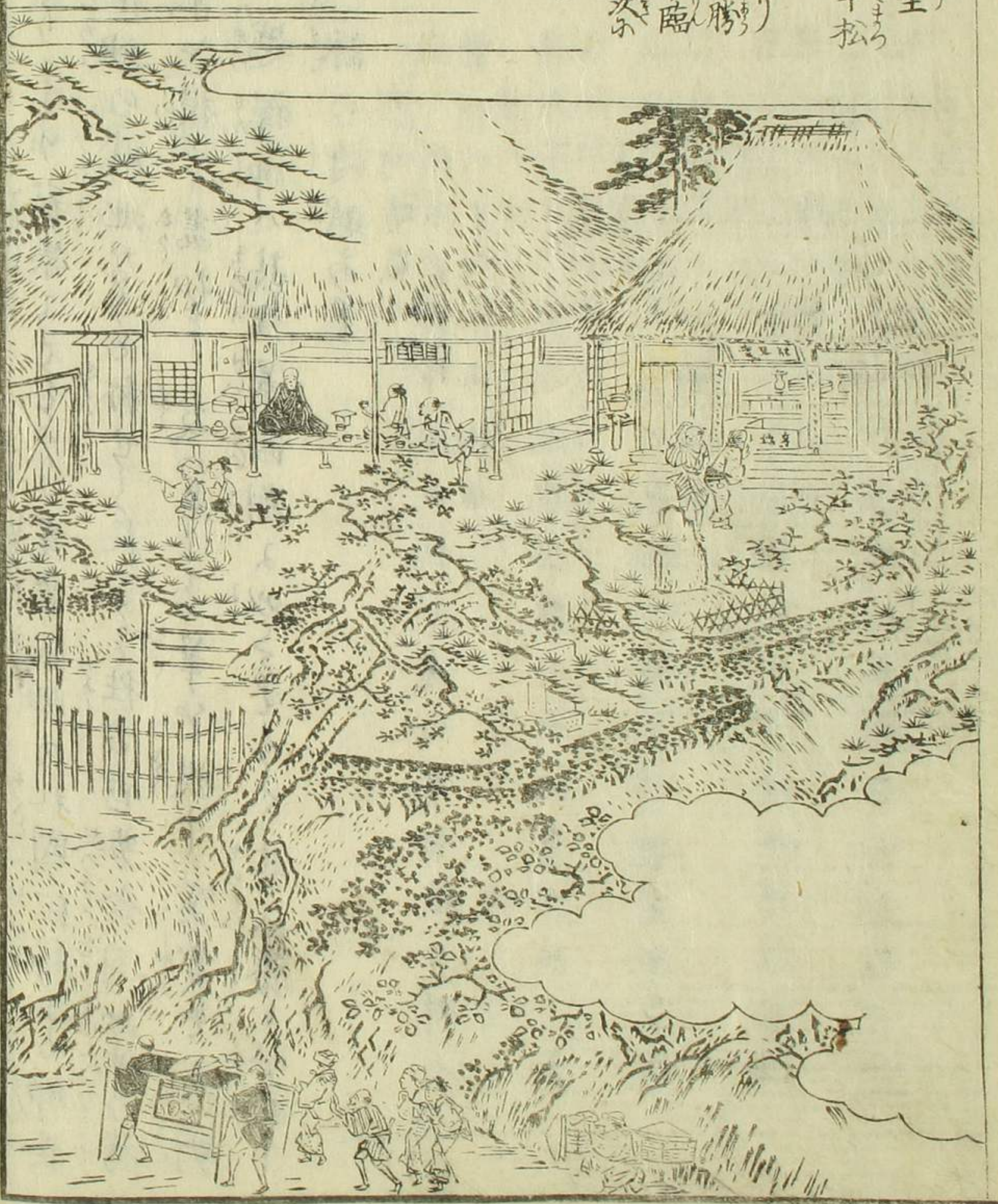
絶妙の勝地なりと稱せしれり往古巨勢金岡此地の勝  
 景を摸し畫むと及びし筆と投し嘆賞を大明  
 心越禪師ハ其佳景西湖に似しと其八勝は准疑し  
 八詠の詩賦あり  
 涸々洲崎晴嵐  
 静悄行雲流水自依依  
 清瀨消々秋月  
 飄々處々看水輪舟際浮  
 暮雨淒涼夢亦驚甘泉洞々聽分明蓬窓淹蹇無  
 相識腸斷君山鐵笛聲  
 朝宗萬帆連天無恙輕帆掛日邊款乃高歌落  
 雲外依稀數艇到洲前  
 風青稱名藍鐘覺地華鐘晚扣若蘇音幽明聞者咸  
 生平悟一落雁離祇樹木



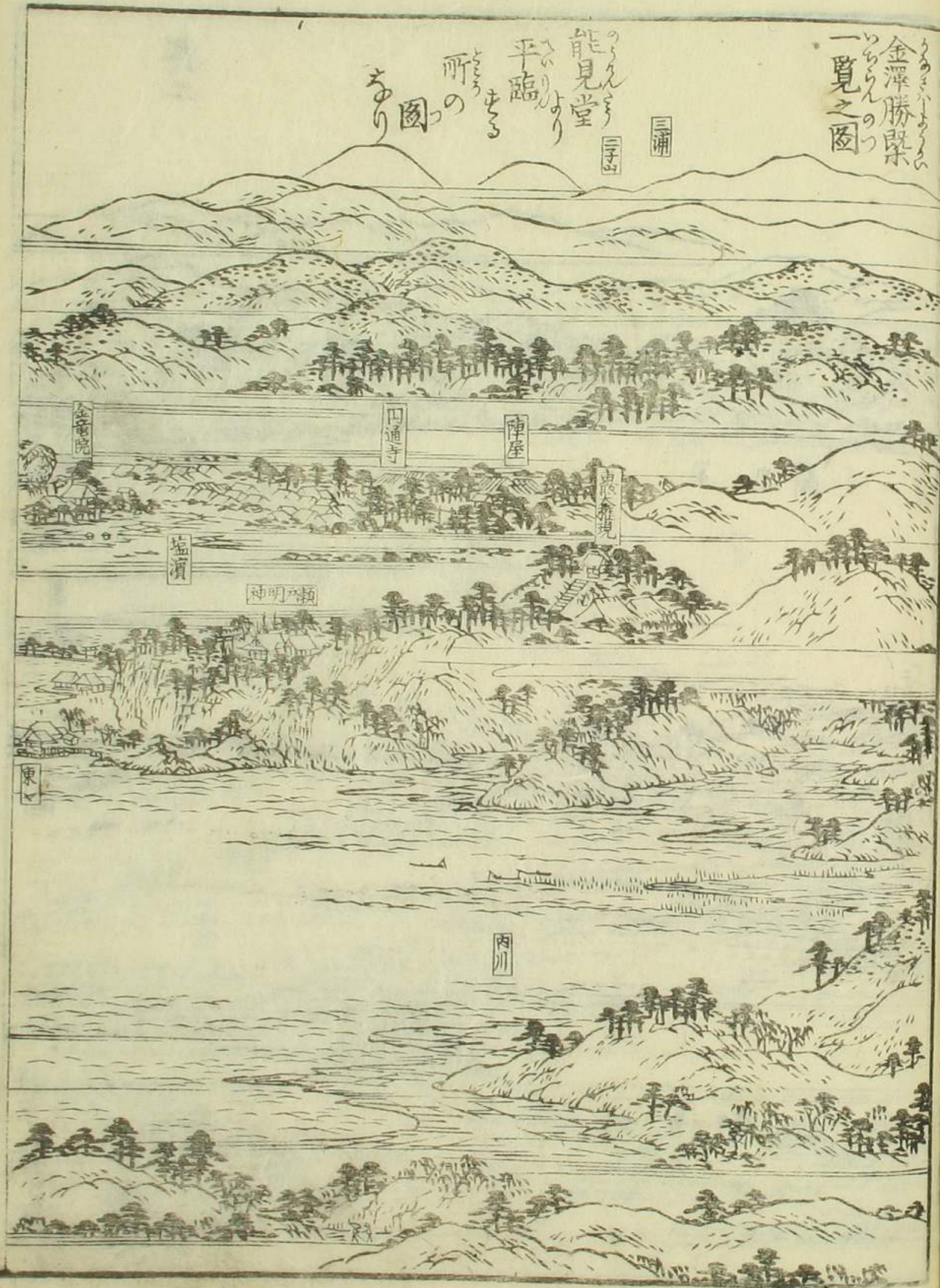
涼 也 折 乎 星 筆 擲 松  
 西山 宗固



能見堂  
 擲筆松  
 此所あり  
 金澤の勝  
 際を平臨  
 まる園ハ  
 卒より



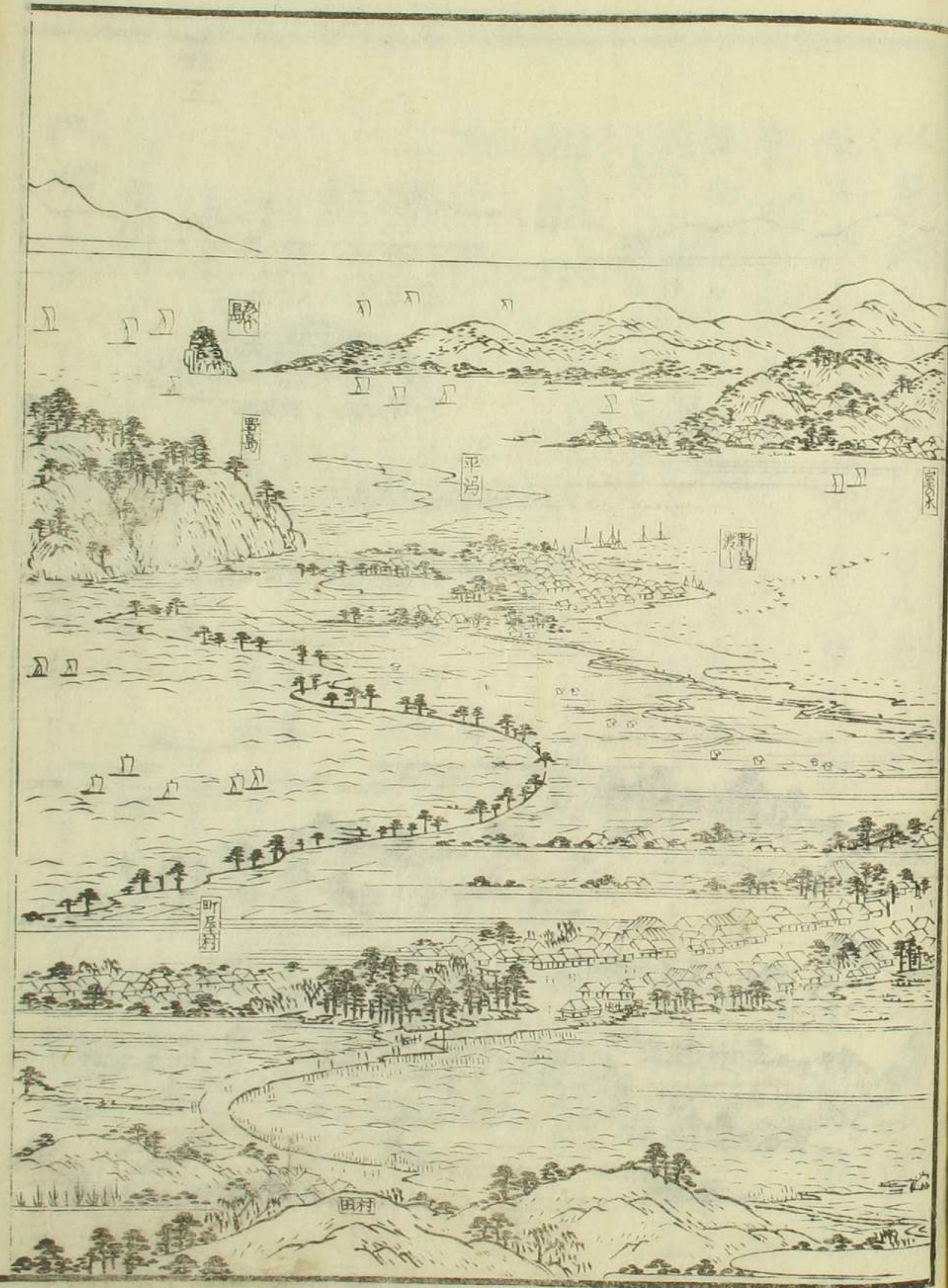




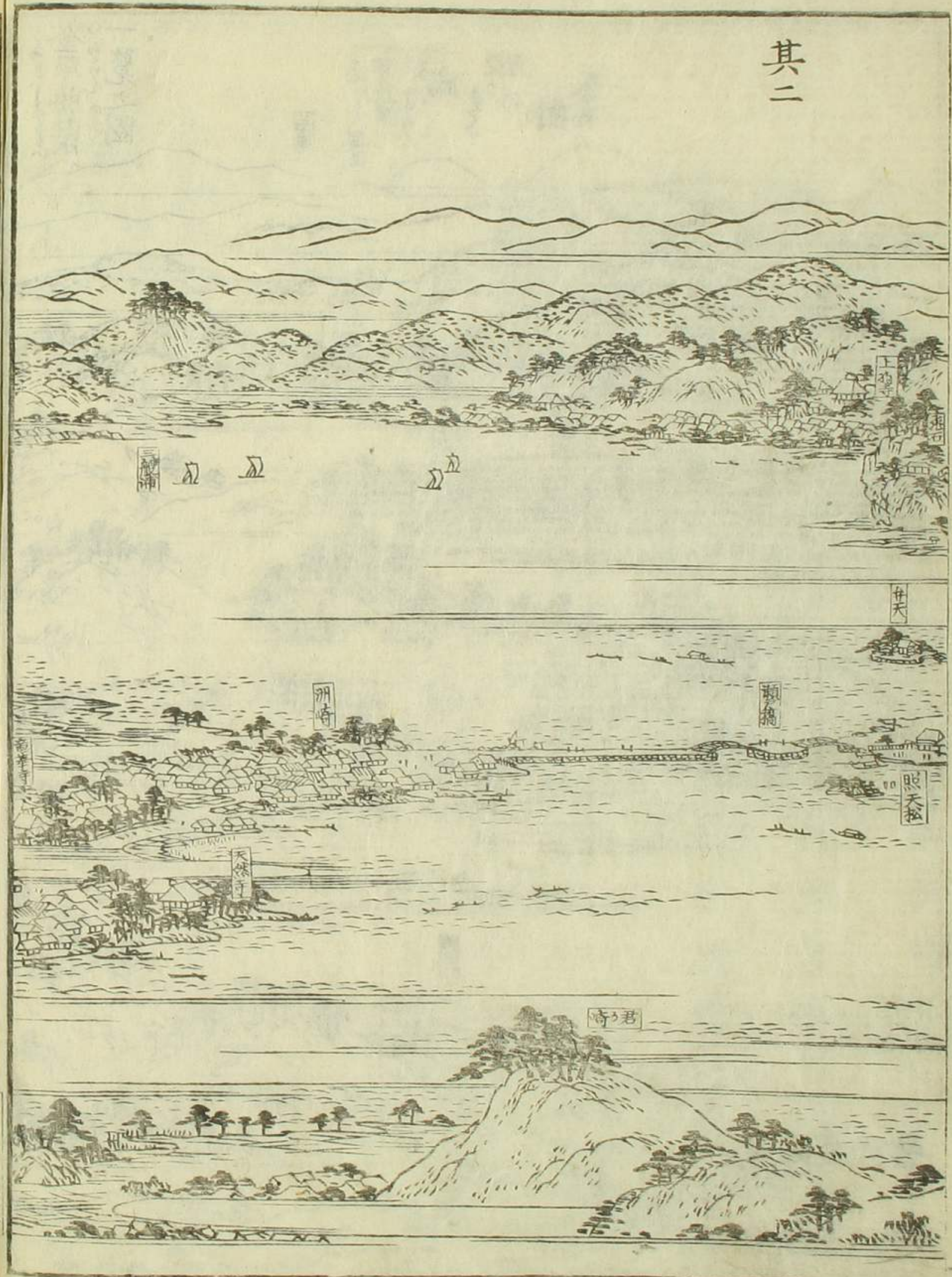
列陣冲冥堪入塞菽蕭瑟幾成隊飛鳴宿食恁  
 棲内川暮雪沒潛奇花六出以鋪練渾然玉砌山  
 廣色遍覆危峯露些犬  
 獨羨漁翁是作家持竿盪漿日西斜網得魚來沾  
 酒飲披蓑高臥仕堪誇  
 武州金澤擲筆山能見堂有蒲相八景之風味因觀  
 鎌倉志甚詳一夕寥寥對青燈漫賦八景之陋句以  
 識斯勝境云歲執徐夏日  
 東阜越杜多州

能見堂 金澤稱名寺の良の山上よりく 禪宗の草庵あり  
 本寺の地藏井ハ惠心僧都の作也一寸八分有りと云  
 後世立像二尺五寸計の地藏菩薩を作し 靈像をハ  
 其胎中よりこめり云故に此草庵を地藏院と号く 冷の  
 近世久和州侯源廣之建立ありと云 柳筆山及び  
 能見堂の二ツの額を共心越禪師の書なり 相傳ふ昔畫工  
 巨勢金岡なるもの其真景を写さんと 筆比及ハさるべし





其二









北よめりくハ皆山中東ハ滄溟に連り千里の風光  
窮りなく沖舟の真帆片帆ハ雲小入りとあやハ海  
瀬戸の神祠ハ水に臨み称名の佛閣ハ山ハ傍り漁家  
氏屋ハ樹間ハ波間ハ波間ハ波間ハ波間ハ波間ハ波間  
又瀬戸の烟湖水の盈虚も皆此擲筆松の下に平臨  
秋冬の変わり千態万状極りなく開左の一勝地あり  
あつと松島象潟の風致ありを以雅客遊人留連時と  
移せりとも其十有一と究り能り

金澤山稱名寺 町屋村あり 弥勒院と号に真言律に

南都の西大寺は属を當寺ハ龜山帝の勅願所あり

北条越後守平實時の本願其子顯時の建立なり

法名を慧日と号を靈牌ハ弘安三年三月二十八日に卒せり

本尊弥勒菩薩ハ唐佛あり立像五尺五寸あり傍に蓮慶

の作の地藏尊の本像二軀を安んず開山ハ審海和尚と号す

小田原北条家分限帳に金澤稱名寺領金澤に伏せり又氏綱の三男

兼壽王所領の内金澤稱名寺あり地を注し加へり

愛深堂 本堂の西あり本堂に一切經を収蔵す

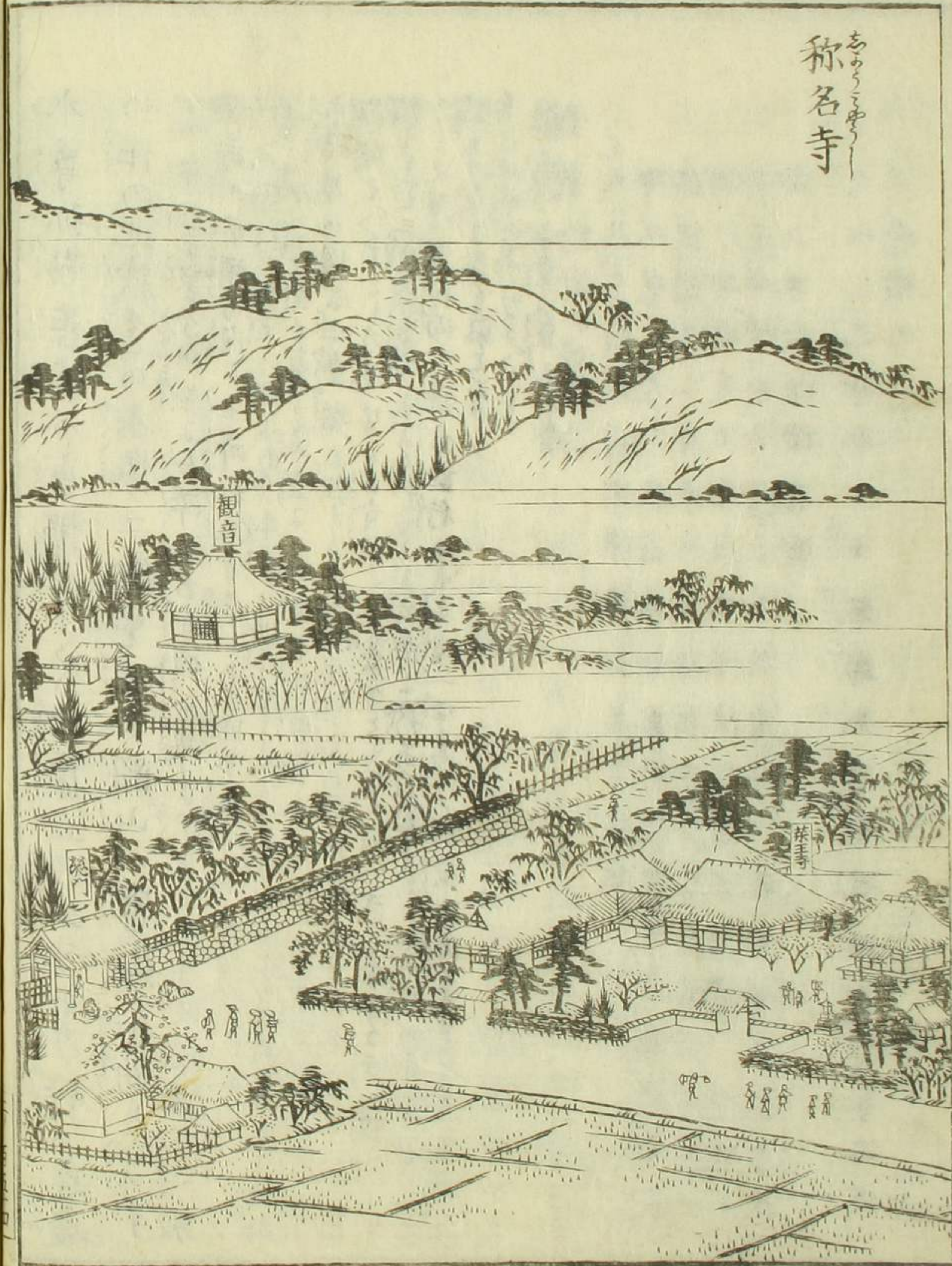
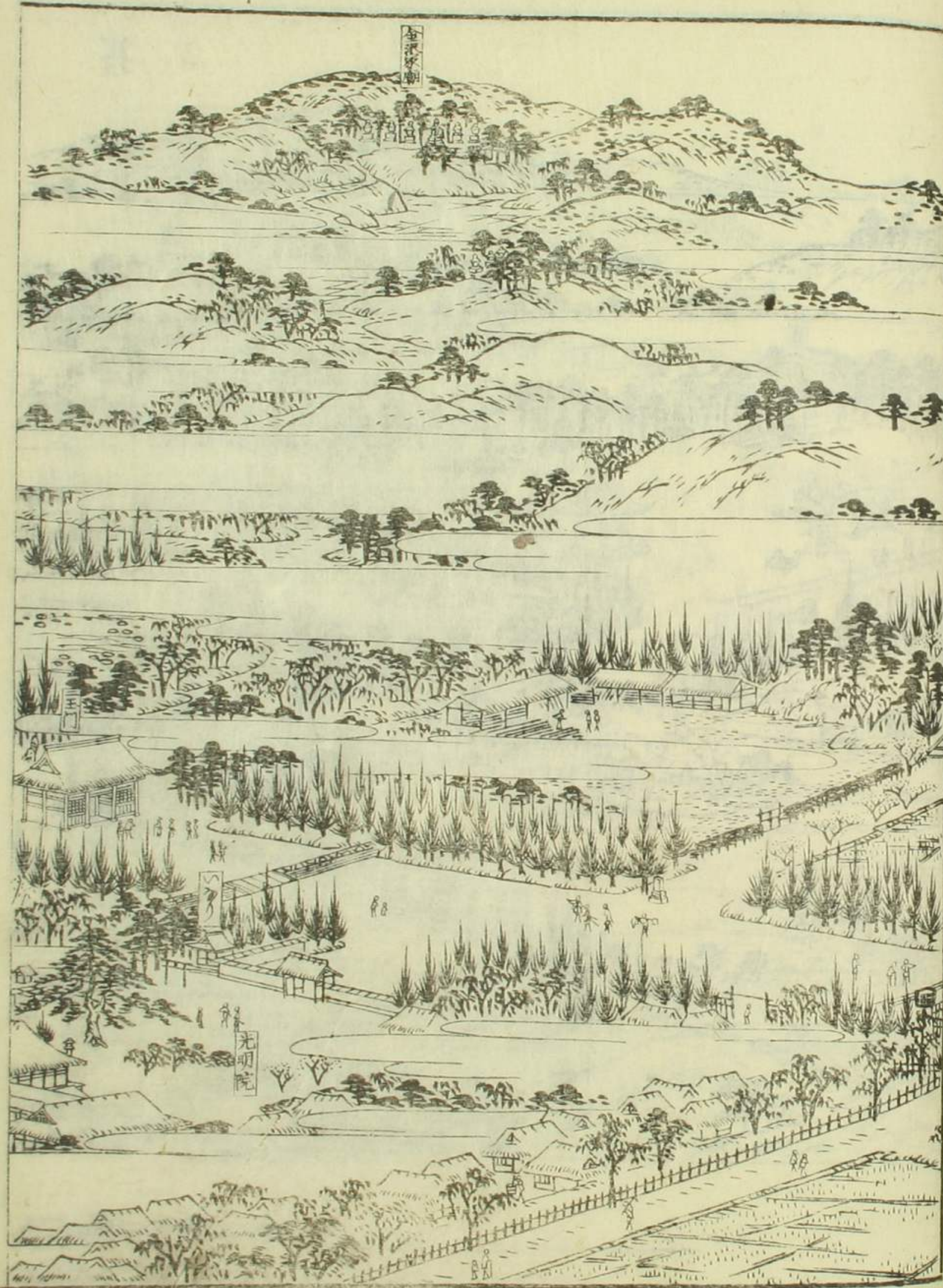
大結界の園は三重塔と注し道興准后の四國雜記に稱名寺とあり

又澤庵和尚の鎌倉記行ゆ本堂一字あり諸堂皆跡をり五重比

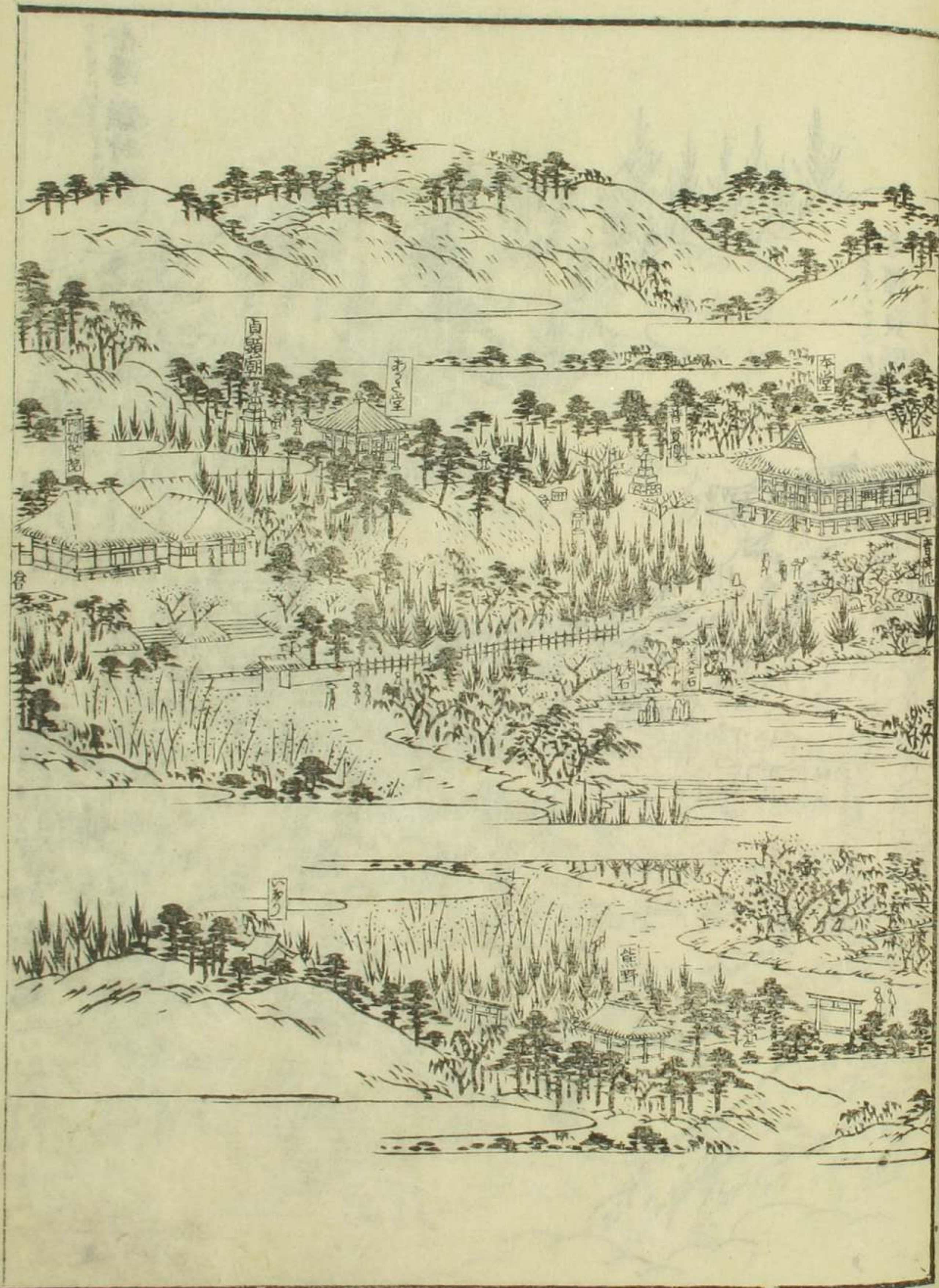
鐘樓 本堂の東あり

大日本國武州六浦莊稱名寺鐘銘  
降伏魔力怨除結盡無餘露地擊捷槌菩薩聞當集  
諸欲聞法入度流生死海聞此妙響音盡當雲集此  
悉有佛性如是生滅住無有衰易一聽鐘聲當願衆生  
斷三界苦頌證菩提  
文永己巳仲冬七日奉爲先考先妣結緣人等同成  
正覺鑄之









其二





金澤頭時墓



金澤貞頭墓

大檀那越後守平朝臣實時實泰谷禪尼

宋入宋小比丘 圓種迹 慈洪書

改鑄鐘銘并序  
 此鐘成乎文永  
 力并募士女更  
 伏乞先芳超越  
 於光世音暨乎  
 洪鐘之起其始  
 質備九乳形象  
 三界五趣無八  
 之朝之夕無愚  
 正安辛丑仲秋九日

凡醒長夜夢  
 同見金仙

驚聞於入玄  
 同見金仙

餘道遙十銘曰  
 同見金仙

大檀那入道正五位下  
 法名慧日當寺住持  
 大和權守物部國光  
 山城權守同依光

金澤頭時墓  
 當寺大檀那  
 高七尺餘  
 同貞頭墓  
 高七尺餘  
 同貞頭墓  
 高七尺餘



美女石 燒石 四石と稱する其一なり 金澤  
青葉楓樹 鉢堂の前鐘樓の傍あり舊樹ハ枯る今新本を栽る

北國記行 金澤 いづりて林名とす律のあり

つわさば一本は時自らむのふさきより花ののみち

東國記行

つわさば一本は時自らむのふさきより花ののみち

宗牧

鎌倉記行

秋のつわさば一本は時自らむのふさきより花ののみち

全

西湖梅

鐘樓の影あり花ハ重瓣なり

澤庵

梅

花無盡蔵日貼西湖梅詩序律寺西湖梅以未開  
丙午小春余入相州金澤稱名東遊第一奇産也  
為遺恨富士則木邦之山而斯梅則支那之觀乎  
唯見落蕾而雖未見其花豈非東遊第一奇産乎  
哉金澤蓋先代好是之主屬南船移枕西朝金  
梅於稱名遊庭背以西湖呼之余作詩云前朝金  
澤古招提遊十餘年雖未盡其福己酉夏余未  
遺恨翠禽啼及今年餘恨未盡福己酉夏余未  
春摘其花數十片為包惠翁之借余手趙昌  
之舊廬奉獻彼見之則春梅設遠而見之日則  
條貼其花近而見之則春梅設遠而見之日則  
所貼其花近而見之則春梅設遠而見之日則  
觀焉次要作贅語題軸上漫從揚水之未章云  
西湖梅貼軸詩題軸上漫從揚水之未章云



六浦秘法日荷上人  
 稱名寺の住僧と  
 蔵の基と圍と彼  
 寺の二王と  
 賭物と  
 上人勝  
 くれハ終ハ  
 これを負  
 甲州身延  
 山へ至られ  
 くりと云  
 大力無双の人  
 なり



前朝金澤古招提  
 梅有西湖指枝拜  
 遊十年遲雖啞臍  
 未開遺恨翠禽帝  
 一横枝上粘西湖  
 名字斯花別不呼  
 意外春風真假合  
 傍人定道益成圖

櫻梅 同所あり花ハ重辨  
 文珠櫻 同所あり普賢象ハ對一の  
 今ハ荒廢せり澤庵和尚の鎌倉記ハ此の室と書せしを  
 聲のともをともと坐禪觀法の床をあらわす  
 頃も荒廢せり

阿弥陀院 本堂あり左山の傍あり  
 運慶の作あり此二像ハ杉田村東禪寺とのあり  
 四の二王ハ六浦の荒井平次郎光吉の家  
 稱名寺の住僧と其を置二王と賭と終日荷上人勝  
 二王の像をぬき身延山に送られりと六浦上行寺  
 なりと稱する五寸ありの玉と傳へり

熊野新宮 此の西岡の上あり  
 寺寶 佛舍利 祖相兼の舍利と号し  
 國室生山ハ納置多しと 龜山帝の執にり

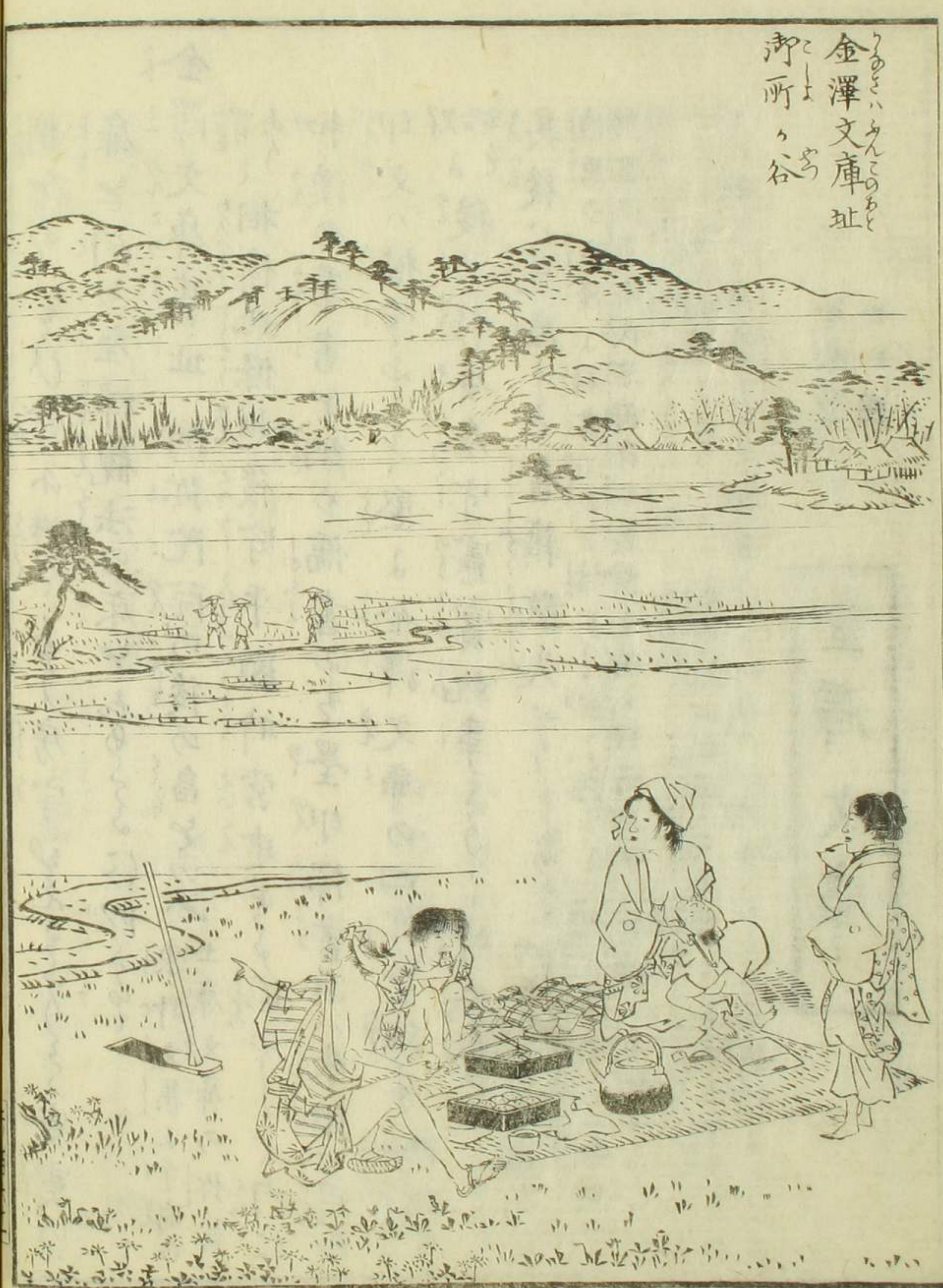
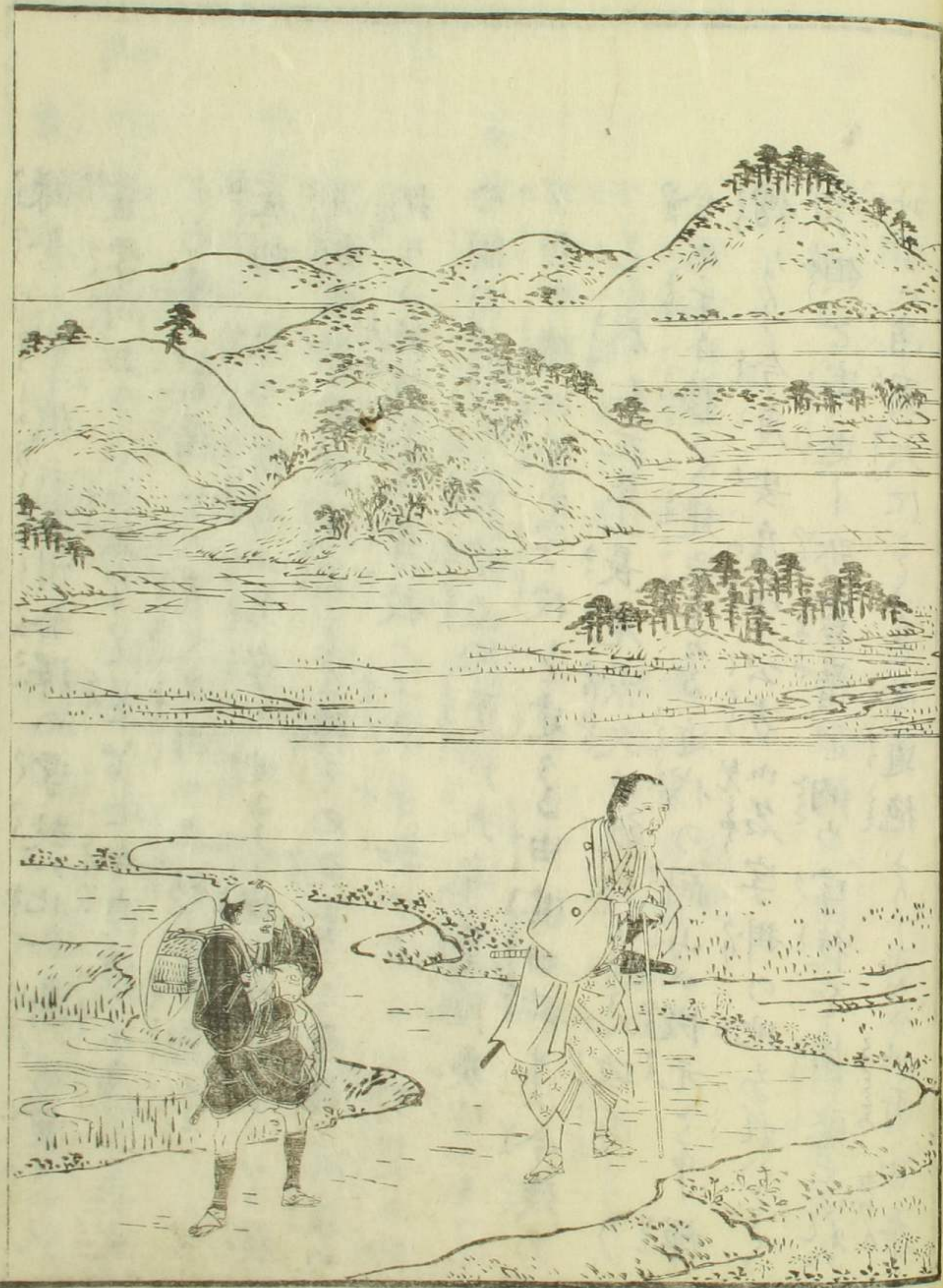












金澤文庫址  
御所谷



鎌倉大草紙云武州金澤の学校ハ北条九代の繁昌此  
昔学問あり旧跡なり是れを今度彼文庫を再建  
種々書籍を入置又上州ハ上杉々分國ありこれハ  
足利ハ京并鎌倉ハ名字の地あり他ハ異なりや彼  
足利の学校を建立し種々の文書と異國より求め  
納る此足利の学校ハ上代兼和六年ハ小野篁上野  
の國司より一時建立の所同九年篁陸奥守ありて  
下向の時此ハ学校を建てる由其旧跡ハ今残る  
るを應仁元年長尾景久ハ沙汰とて政所より  
今の所へ移る建立しる近代の岡山ハ快元と中禪  
僧なり今度安房守公方ハ名字掛の地あれハとて  
学領を寄進し弥書籍を納め生徒を隣縣をよめ  
此項ハ諸國大にても學道絶たりハ此所日本

一所の学校となる是より猶以て上杉安房守憲実と  
諸國の人をほめたるハあり西國北國よりも生徒悉く  
集ると云々

觀金澤藏書而作  
玉帳修文講武餘  
牙籤映日窺斗  
北上一編看不足  
照心古教君家有

義堂  
遺人來見舊藏書  
縹帙衆晴走蠹魚  
鄭侯三万欲何如  
收在脚中壓五車

幕景集  
二月釋菜金澤の文庫  
日向勝元の許よりやこれれは隣家梅花  
表あれは物といふを記すをとも別は梅のり風 持資

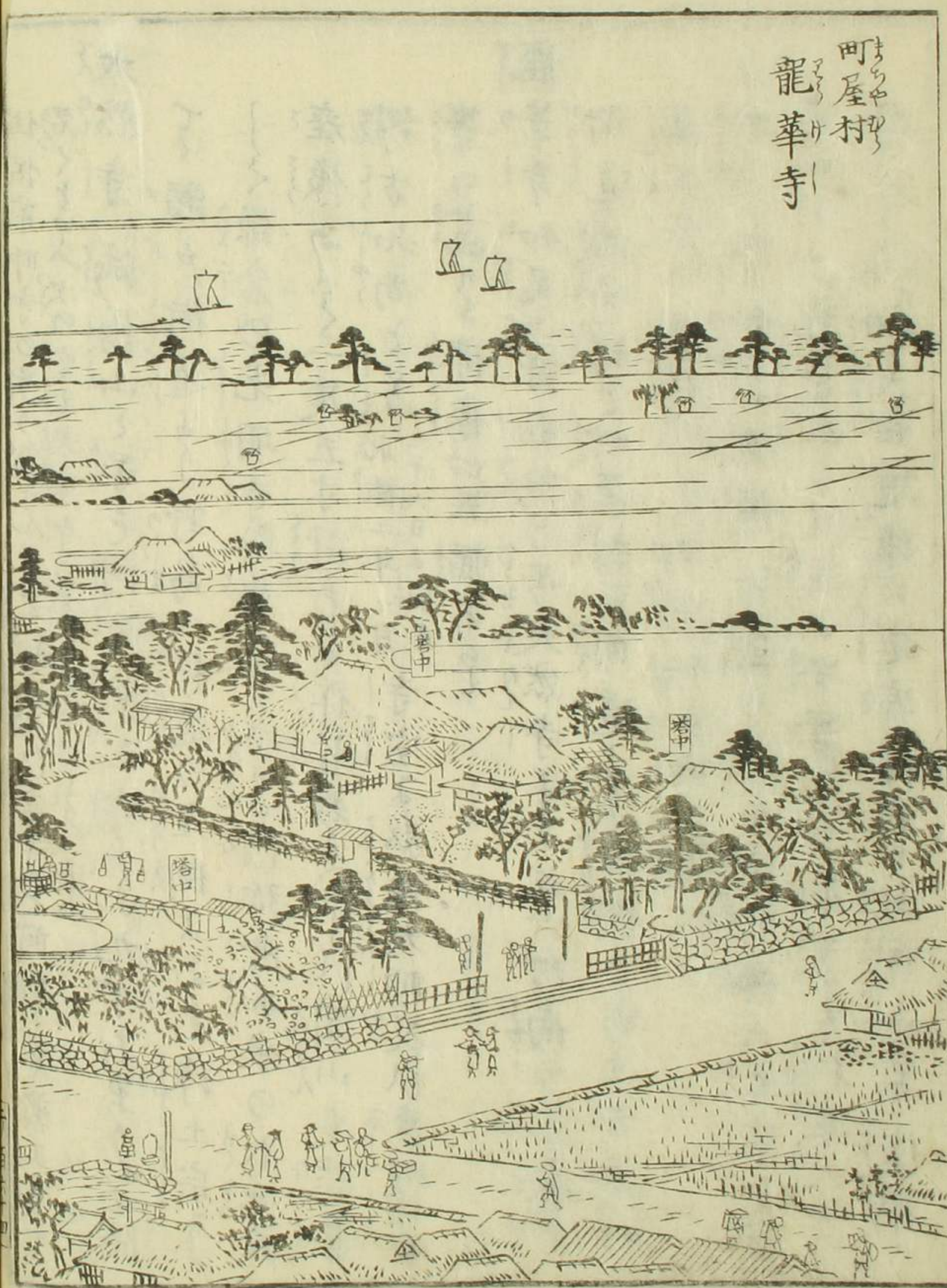
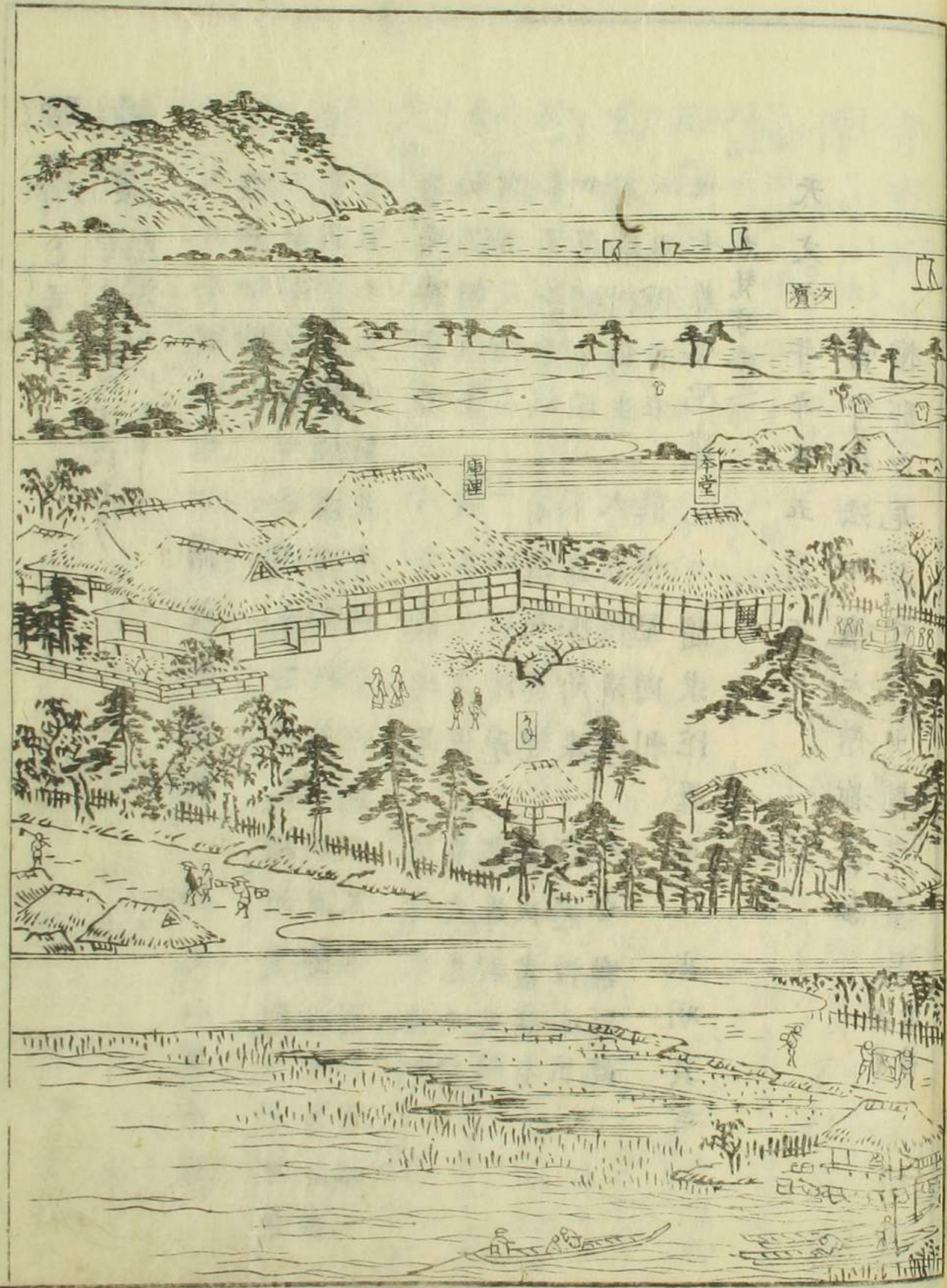
丙辰記行  
懷古淚痕羈旅情  
人亡書泯幾回歲  
府儒早晚起蒼生  
境致空留金澤名

御所  
龜山帝の行宮の跡なりと  
阿弥陀院の後の切通をゆる畠と云里俗云く  
切通ハ則所恭請の鎌倉志









町屋村  
龍華寺



融<sup>と</sup>辨<sup>と</sup>鐘樓<sup>と</sup>其<sup>と</sup>文<sup>と</sup>左<sup>と</sup>の<sup>と</sup>方<sup>と</sup>に<sup>と</sup>あり

大日本國武州六浦庄金澤郷 知足山龍華寺

唱鐘知識文 夫滄海者鱗甲所潛泰岳者翔蹄所集則知智池者

留名王之望劍兼亦歟 灰河脫三界苦得見菩提

菩薩勝慧者 乃至盡生死 恆作衆生利

而不趣涅槃 一般善及方便 智度悉如持

諸法及諸有 一頂切皆清淨 諸伏盡諸有

如蓮體本染 不有垢所深 大安樂旨鏡

不染利群生 能大欲得清淨 諸慾性亦然

三尊得自在 能作堅固陀羅尼 光明真言

世七尊聰陀羅尼 隨求陀羅尼 光明真言

天文十年辛丑五月五日

當寺住法印推大僧都善融 檀那古尾谷中務少輔平重長 道傳

寺寶兩界曼荼羅 像 一幅弘法大師或願行 十三佛補像 一幅中持如の不動畫像

鳳凰頭 龍頭 上金の箔を貼せり 灌頂の時幡を掛る具あり

當寺ハ治承年間鎌倉右府頼朝公伊豆國三島明神を

金澤瀬戸の地ハ勸請ありし後法味を進むる為

文覚上人と共に志と合せ文治年間六連の山中に精舎を

創建せし彌勒菩薩の像を安んずる都卒の四十九院に

準擬し四方に六八の僧坊を建淨願寺と号庄園若干

と寄らる 當寺是なり 往古弘法大師獲摩修りたり

覺を並へ粉壁ハ月の光を移を伽藍ハ博敞あり丹柱あり

星の林をなせり 其後正嘉年間南都の恩性律師當山ハ



住し戒律を弘め弘長二年中東寺の能禪法印當寺に  
於く灌頂を修せしむる印融僧都の附屬に依て光德寺を  
兼帶せしむる此寺も頼朝公の建立の初此寺は住親筆の書籍也高野山  
無量光院印融東遊の初此寺は住親筆の書籍也高野山  
充滿然も數度の兵起より西院の領地も他も奪はれ大に  
荒廢せしを明應八年融辨師大永四年甲申八月  
朔日寂八十二歳深く是を愁へ  
本尊の眞助を頼りし菅原朝臣中務丞資方力を合せ  
伽藍再興を企むる時小本多弥勒大士夢中辨師に告  
めく是より良も當く末世有縁の勝區あり彼所へ移  
し三密の法燈を挑へしと夢覺る後其を窺はるる小竜  
燈の奇瑞あり洲崎村の境なり此堂前は數圍の竟は辨師  
松あり竜燈の松と号し今ハ枯る  
本尊の靈尔も任せ此地に至る二町四方は結界し兼帶  
し其の淨願寺光德寺兩院の僧坊を合せ一寺と爲し  
後土御門院の勅を奉りし知足山龍華寺と号師資相

傳の本も聖教を納め善融法印も附屬を此師は相州小田  
原の城主大森氏の  
末子の龍王丸と号し并師の徳を慕ひ淨願寺に僧とあり其營  
世に隠れり依りて左京大夫永樂錢七貫文并柴村權現堂山と寄附  
享祿五年小東寺の寶菩提院亮惠僧正を請りて傳法  
灌頂を受天文十二年古尾谷中務少輔平重長を檀越と  
し洪鐘を改鑄せし後太田道灌不動尊の靈像を寄  
附して武運延長を祈り此不動尊の像ハ  
舟の左に數を靈牌を置來世の  
追福を求らるる天正十九年 御開國の後當寺を御修  
營りし御朱印を下ししより四海泰平此祈念  
意をなすなり  
當寺ハ眞言古義檀林一宗の本寺中々金澤小甲より  
境内に古木聳え覺樹の粧ひを示し緑竹翠の色を  
なす實相不變の容を頭を海水左右に湛る朝鳥夕兔の  
影を浮へ人家前後に列り山市漁村の觀をなせり二十



鎌倉記行

夕下ノ浪

よき

よき

烏帽子

名

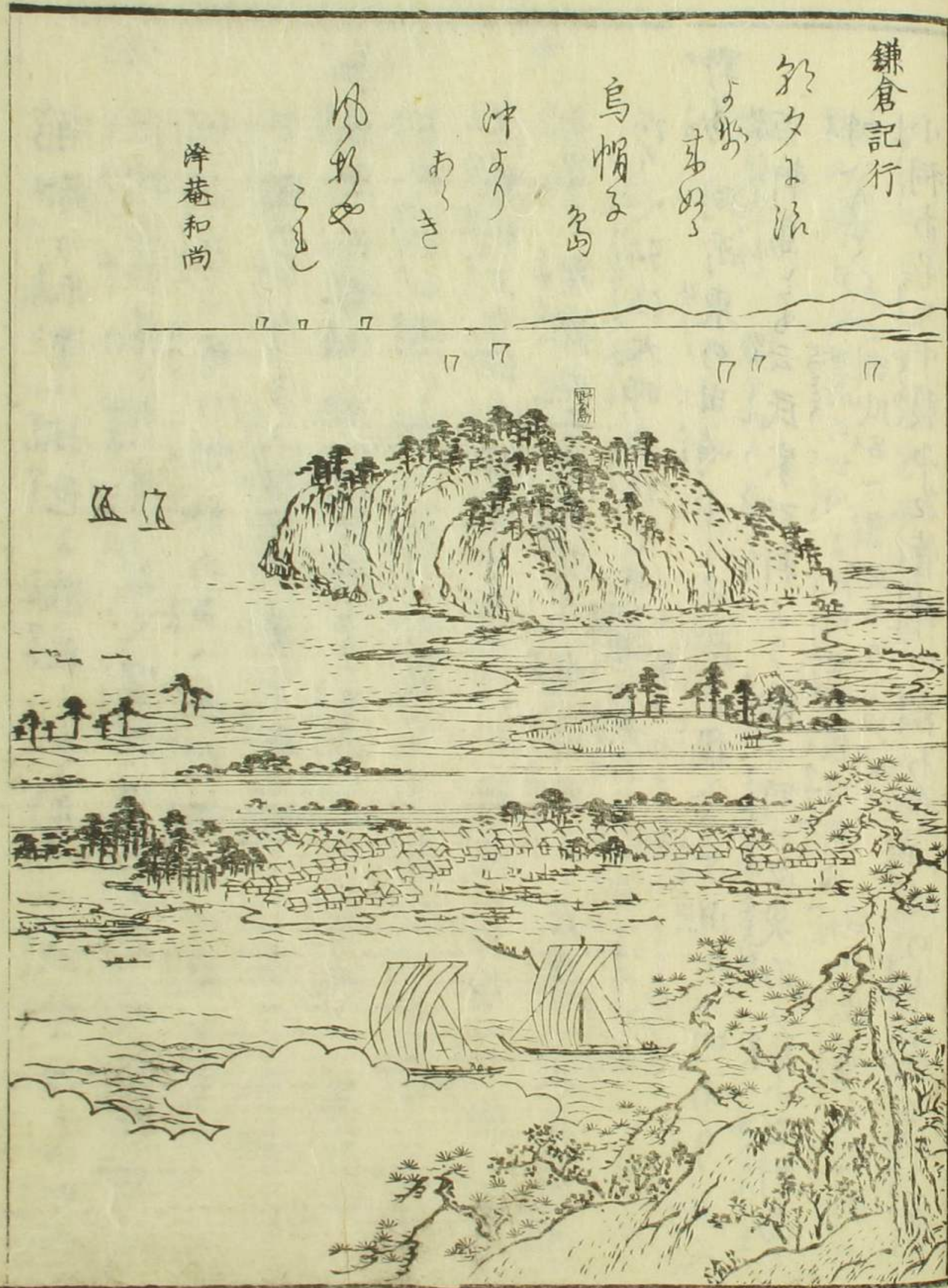
沖より

あき

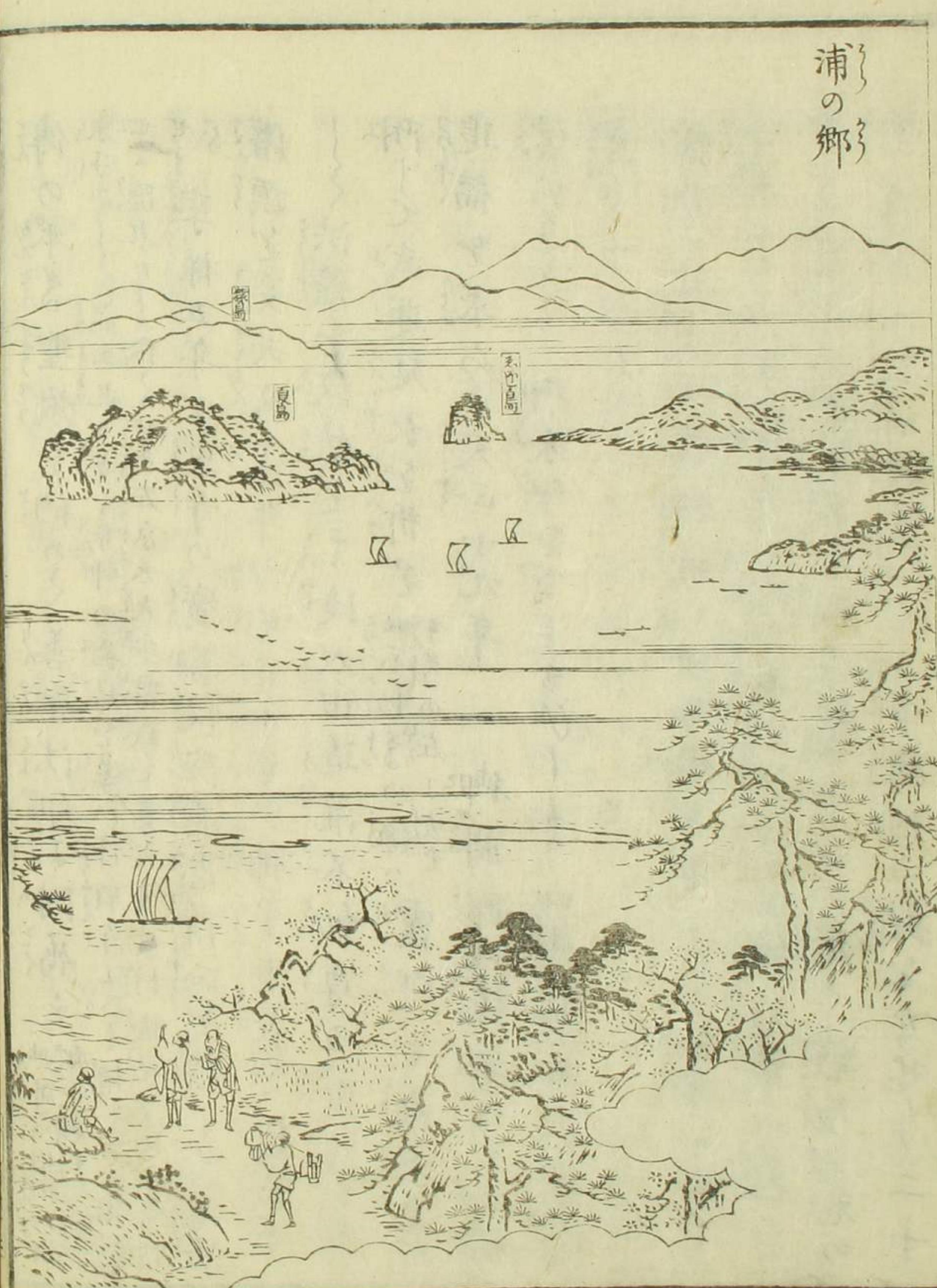
風

こ

津菴和尚



浦ノ郷





有餘の未寺ハ林邑ニ散在シテ年々の法會月々の勤修  
恒例ニ任セテ怠る事なく實祚の長文武運の萬歲茂  
祈ミテ暮る曉の振鈴の声ハ無明煩惱の眠を覺シ夕比  
梵鐘の響きも三途の迷夢を破る實ニ江南の一精舎と  
善應寺野島山と号シ同所より半道斗ニ盛瀆を隔テ南の  
方野島ニ傍テあり真言古義の龍華寺ニ属セ本尊  
不動明王の像ヲ作者を考フニ正觀音の木像ハ立像二尺斗  
ありテ聖徳太子の作ナリ愛深明王ハ座像一尺五寸斗  
ありテ弘法大師の作ト云此像の胎中ニ愛深子の小像  
千體を作テ籠ラシメたり  
野島同所東の出崎中ニ瀨戸橋ハ其間七八町あり土人  
百軒島とも云民家百軒あり餘り時ハ必災あり故ニ百軒島ト  
呼ビテ之此所の出崎ハ紀州垂相頼宣卿の山の出崎ニ稻荷の  
盛風呂の舊地ありと云り  
小祠あり又中腹ニ菅神の宮あり此地の北ニ北を平方と

ツハ町屋村の東と金澤原とのニ此地の東北海濱と云  
鞆の浦と称セリ

鎌倉記行 岩のあやふもひりく自く續をゆ  
汀とつゝ不枯も色り世島とるるれハ

乃の社と云ひあつせくありけり此島の多れを和乃之 澤庵

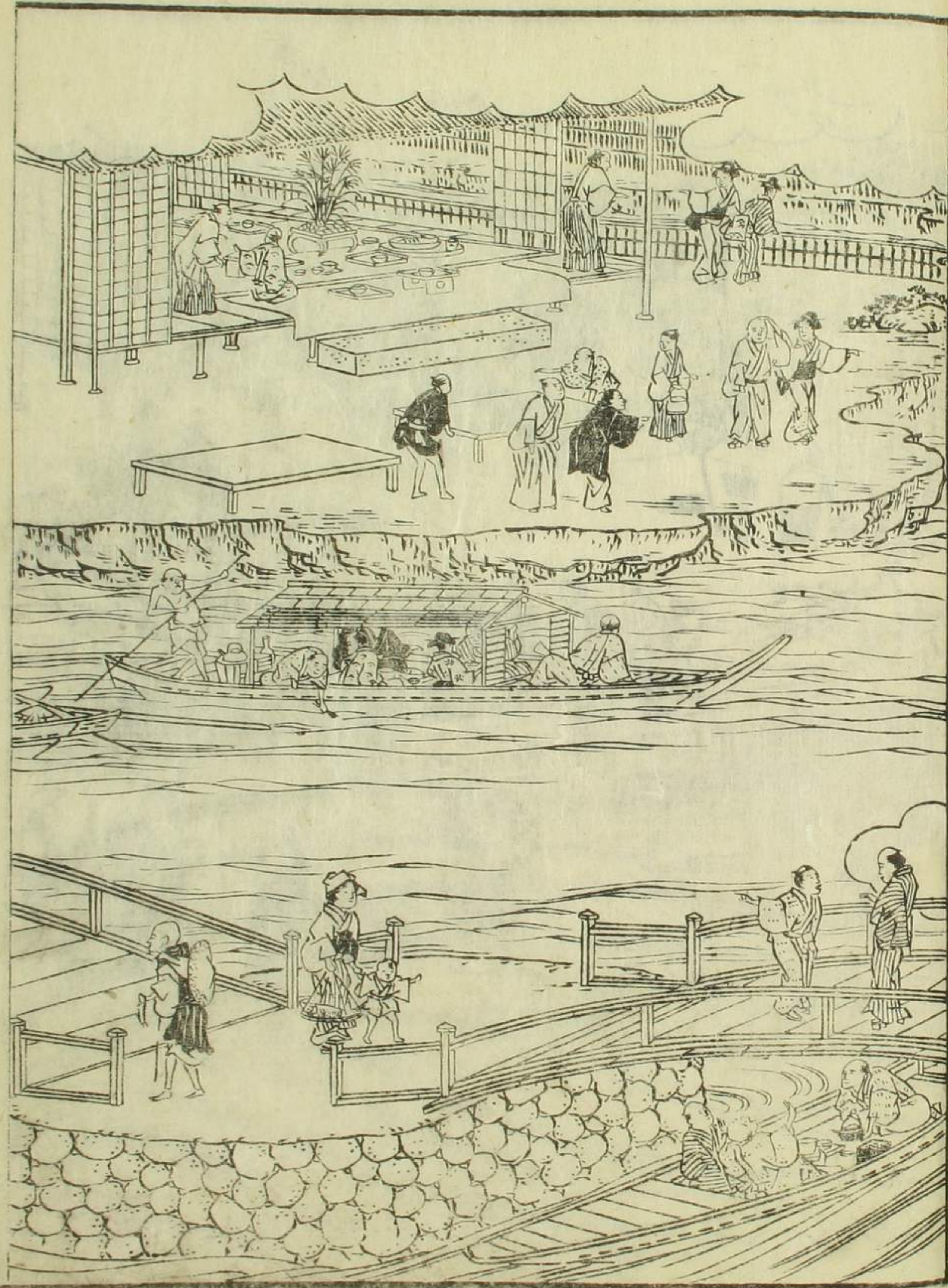
野島渡一野島より南の方室木村へ入渡り舟路  
一町餘とあり江戸あり浦賀への近道なり

洲崎野島の西瀨戸橋の東北漁村を云鎌倉志ニ云太平  
記及び鎌倉年中行事等の書ニ洲崎とあるを鎌倉山  
内の西ニある洲崎村の事ニ此地ありありと見え

瀨戸或ハ迫門  
ニ作る洲崎と引越村との間との

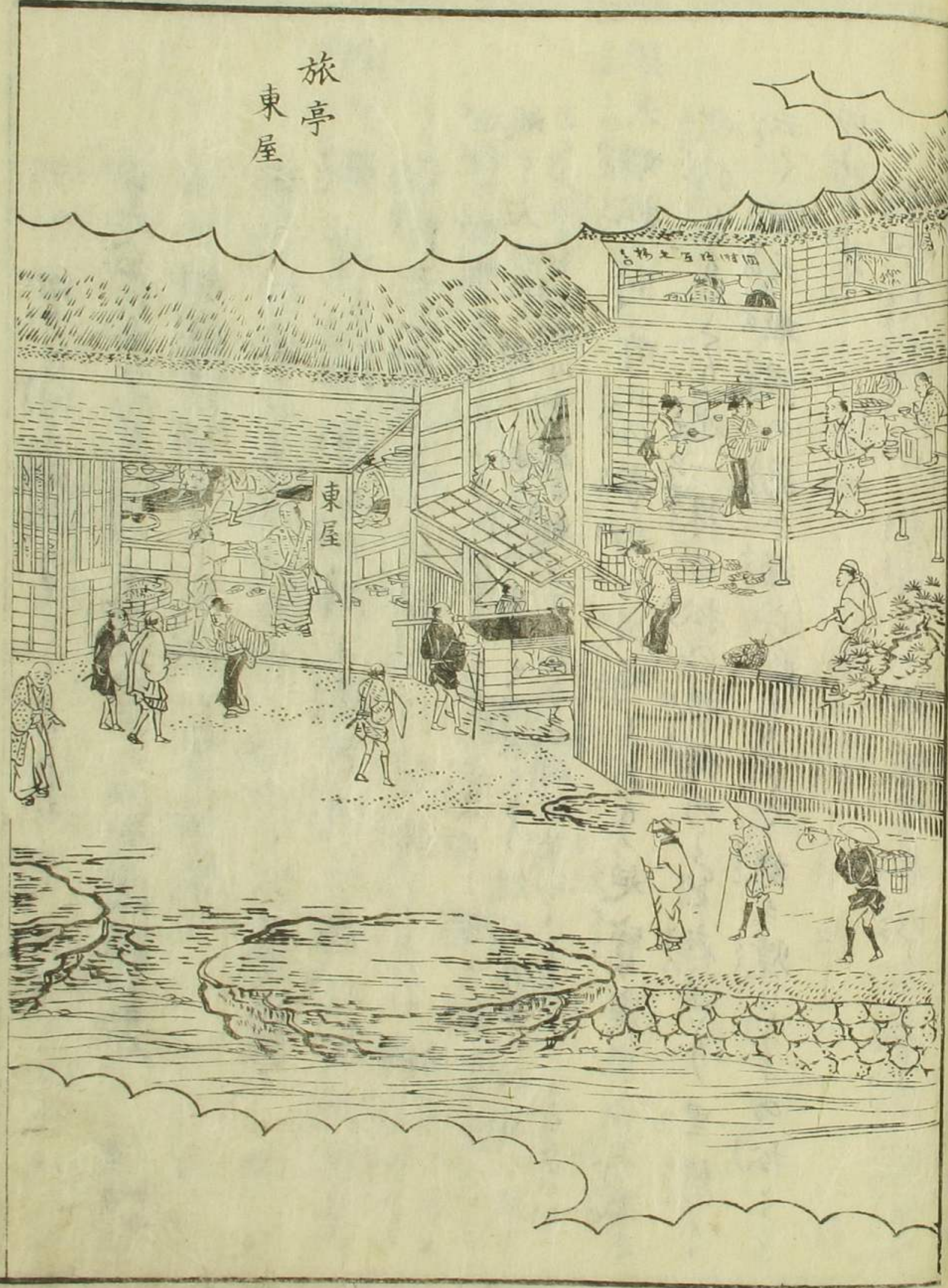
四國雜記 瀨戸を海と云る後地のまを







旅亭  
東屋



其二





瀬戸の神は海をわたりてくると

ゆきかたのたしうが波あつた瀬戸の改命後海は人

道真 准后

磯山傳ひあつたのちをわたりてくれ

あつたの瀬戸の海は浅くあつた海はあつたのちを

瀬戸橋 同入江に架せ中間に臺を儲け橋杭を用ひし

し長と二間あり此橋二川を渡しし

迫門の明神とて入海にさし出たる山あり古本野と麓に橋あり橋の下あり

照天姫松 同所北の方西の出崎にあり延寶庚申の大風

吹折らるゝり連一株の松の根株のをも存せり里彦

云く照天姫姥の爲に燻られしとて姥を焼くし松とて

ゆきかた

鎌倉大草紙云 應永三十年癸卯春より常陸國住人

小栗孫五郎平満重と云者あり謀反を起し鎌倉

背そくられ源持氏結城の城へ勅座あり同八月

二日より小栗を攻らる終に小栗忍ひく三州へ落つる

とある条下は云今度小栗忍ひく三州へ落つる其子

小次郎忍をう小忍ひく關東にあり相州権現堂

と云ふにゆきかたを其邊の強盗を集りてに宿哉

かりられハ主の中ハ此浪人を常州有徳仁の福者の由

聞く定る隨身の寶ありし打殺しし取らるる由

盗合を乍去健なる家人共ありゆ何せん云一人は

盗賊やを酒に毒を入吞せ殺せし先と同一宿の

遊女をを集今様を唄ひせ踊舞戯れたる彼小栗

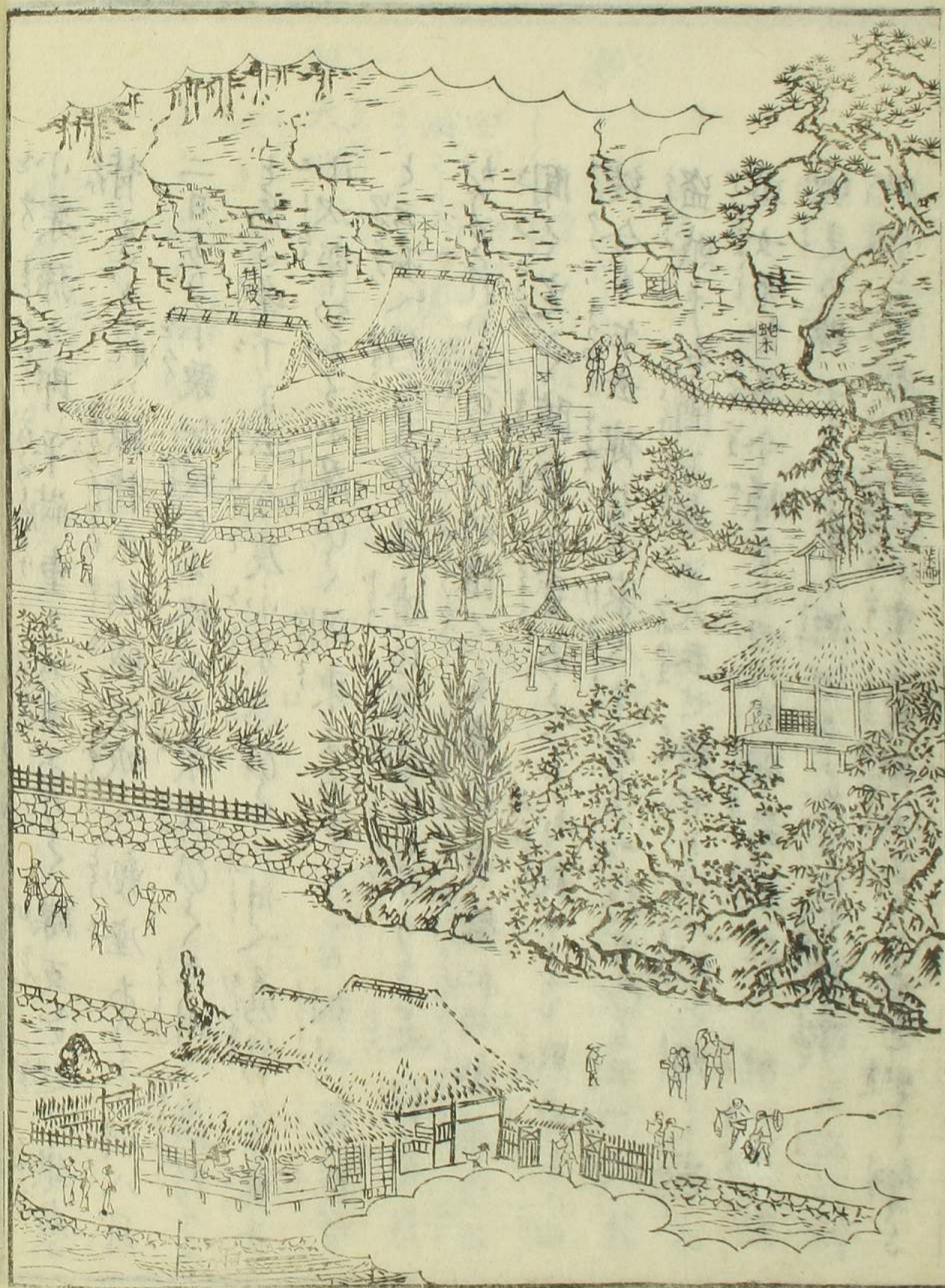
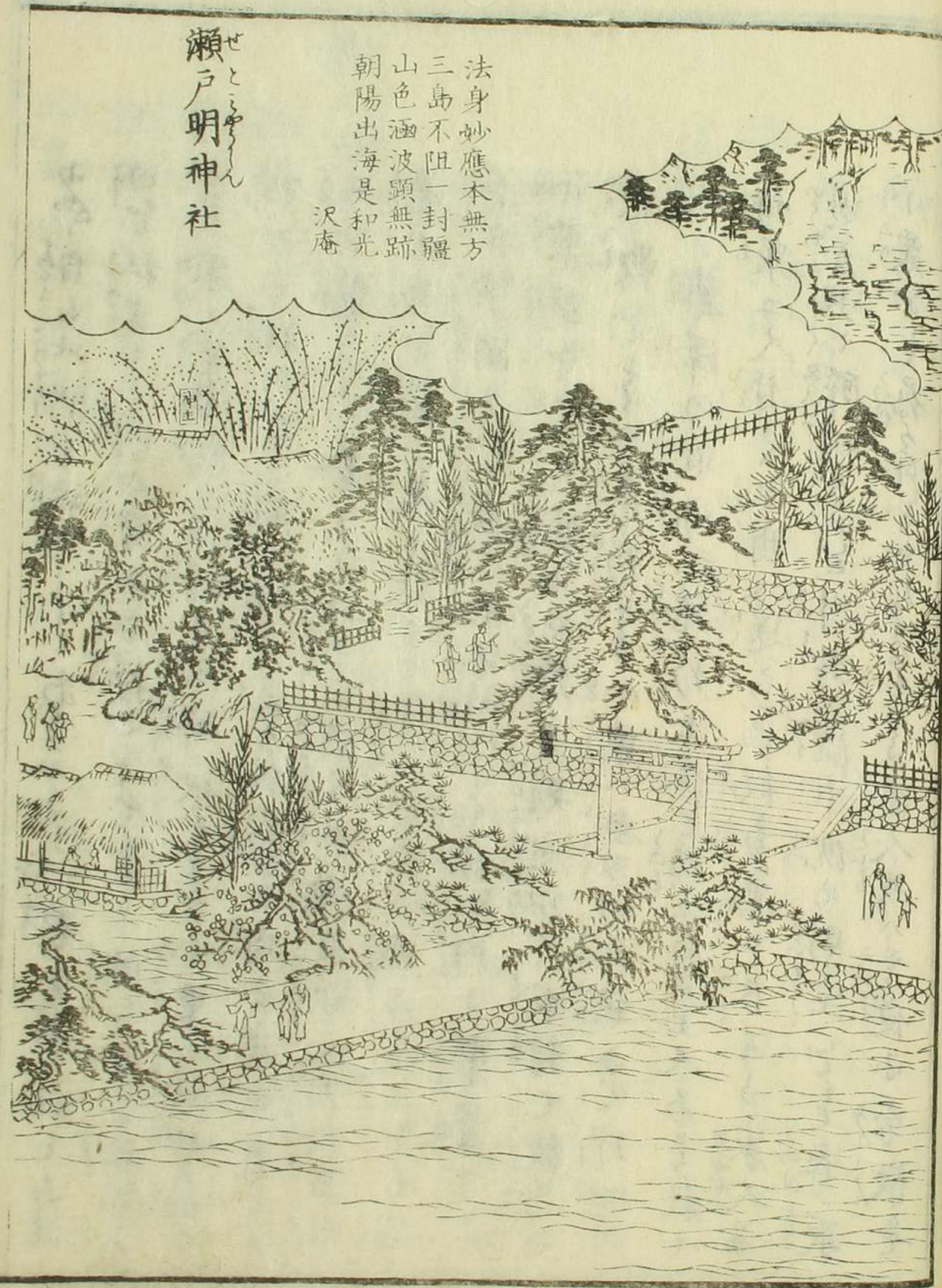
馳走の驍小をてか酒をもちめたる夜酌に立ちし

照姫と云遊女此間小栗は逢馴此ありしゆを以て知る



瀬戸明神社

法身妙應本無方  
三島不阻一封疆  
山色涵波頭無跡  
朝陽出海是和光  
沃庵





あや自ら此酒を呑むとありける小栗とありければ  
由を私言々る間小栗も呑様ふとてか酒を更は呑さ  
るる家人たを知らず何れも解伏てり小栗ハ夜初み  
解ゆる林の有る間へゆくそれハ林の内小鹿毛か  
馬を繋ぎ置く此馬ハ盗人共海道中へ出大名往  
来の馬を盗り来り来り来り一のあ馬あく人も馬  
とも喰踏られ盗人共不叶く林の内は繋置き  
小栗是を聞き密に立帰て財宝少く取持て彼馬ハ  
乗鞭をもちり後終る小栗ハ毎双の馬乗めて片時の  
間藤澤の道場へ馳上人を頼られ上人あをれ  
侍衆二人付く三州へ送らる彼毒酒を呑る家人并  
遊女少く解伏てり川水へ流し沈め財宝を尋取  
小栗とを尋れともなるる盗人共ハ夜分散を

酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる  
酒を呑さるる照姫ハ解ゆる解ゆる解ゆる解ゆる

三州小代々居住せり  
鎌倉大草紙より考ふ照天姫ハ照姫のひと云々小栗の名を世に  
照氏と稱せれとも同書小次郎とのありて照氏と云ふをあるは  
云々栗系譜と考ふ孫五郎平満重子助重とありて此小次郎  
今世は云々あるは照氏より附會の説を備へり

瀬戸明神社瀬戸橋より一町半西の方道あり右側あり  
祭神大山祇命一座之神主十葉氏奉祀也社傳云  
當社ハ右大将頼朝公治承四年四月八日豆州三島の神を  
勧請なりしとあり鎌倉年中終事あり四月八日瀬戸  
三島大明神臨時の祭礼とあり或云往古此神此地へ飛







遺廟柏園六浦橋 朗吟繫馬石支腰  
 歸鴉飛破翠屏面 刺被風聲添晚潮

鎌倉記行

迫つての御神（神） 本地の六通（神） 智勝佛伊豆と序一併ありと  
 神祇とくられり

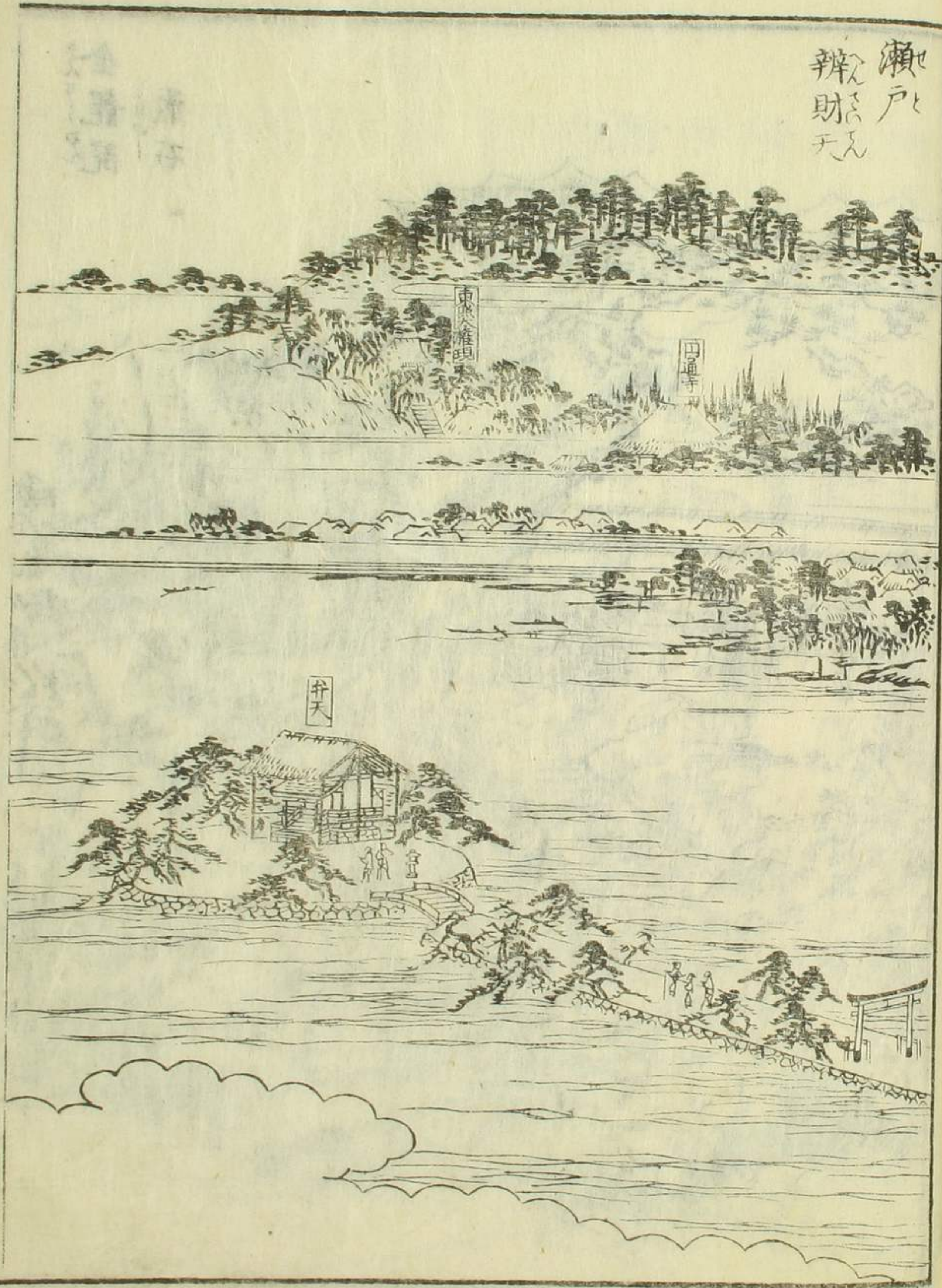
まゝくひの身を今ふあひの川にさるも坊に神垣の円 浮菴

當社境内を千歳の古木雲を凌ぎ回岩社頭を浮くみ  
 多るる山の勢ひ実一巨靈神の身を延くの川くあり  
 此山を遷し久とあゆむ社前の老樹浦風小靡き  
 打寄る浪を下枝を洗み一根清浄なる時ハ六根共に  
 清く我人の頭も神もやとつとさくそを必とせ

りる

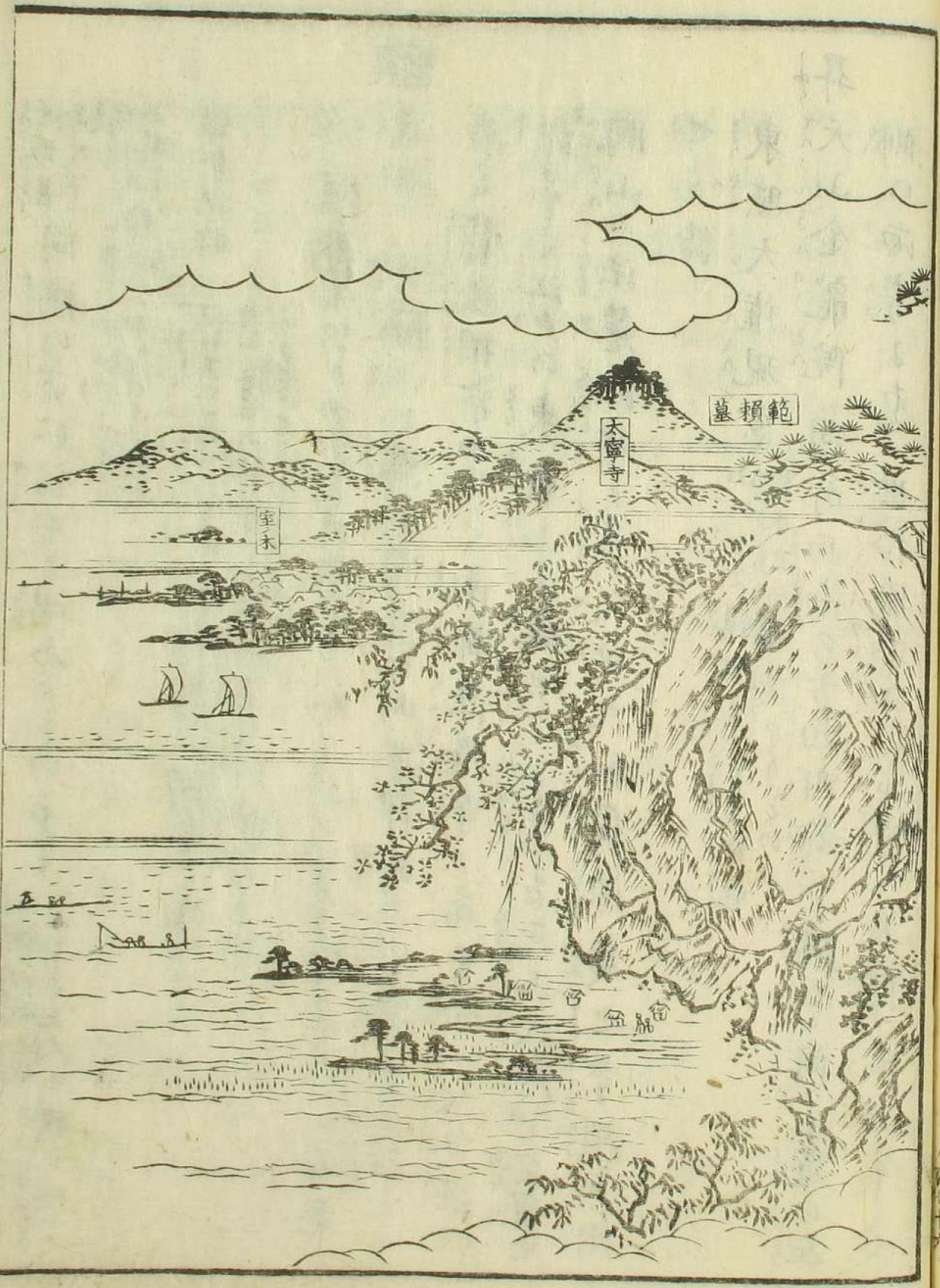
瀬戸辨財天 同社前道と隔く南の入海へ葉出しくる

小島よあを昔頼朝卿の御臺所平の政子御前江州  
 竹生島の御神を勧清せられりとあり  
島の中混拍を多く  
 植たり今を枯く



瀬戸  
 辨財天





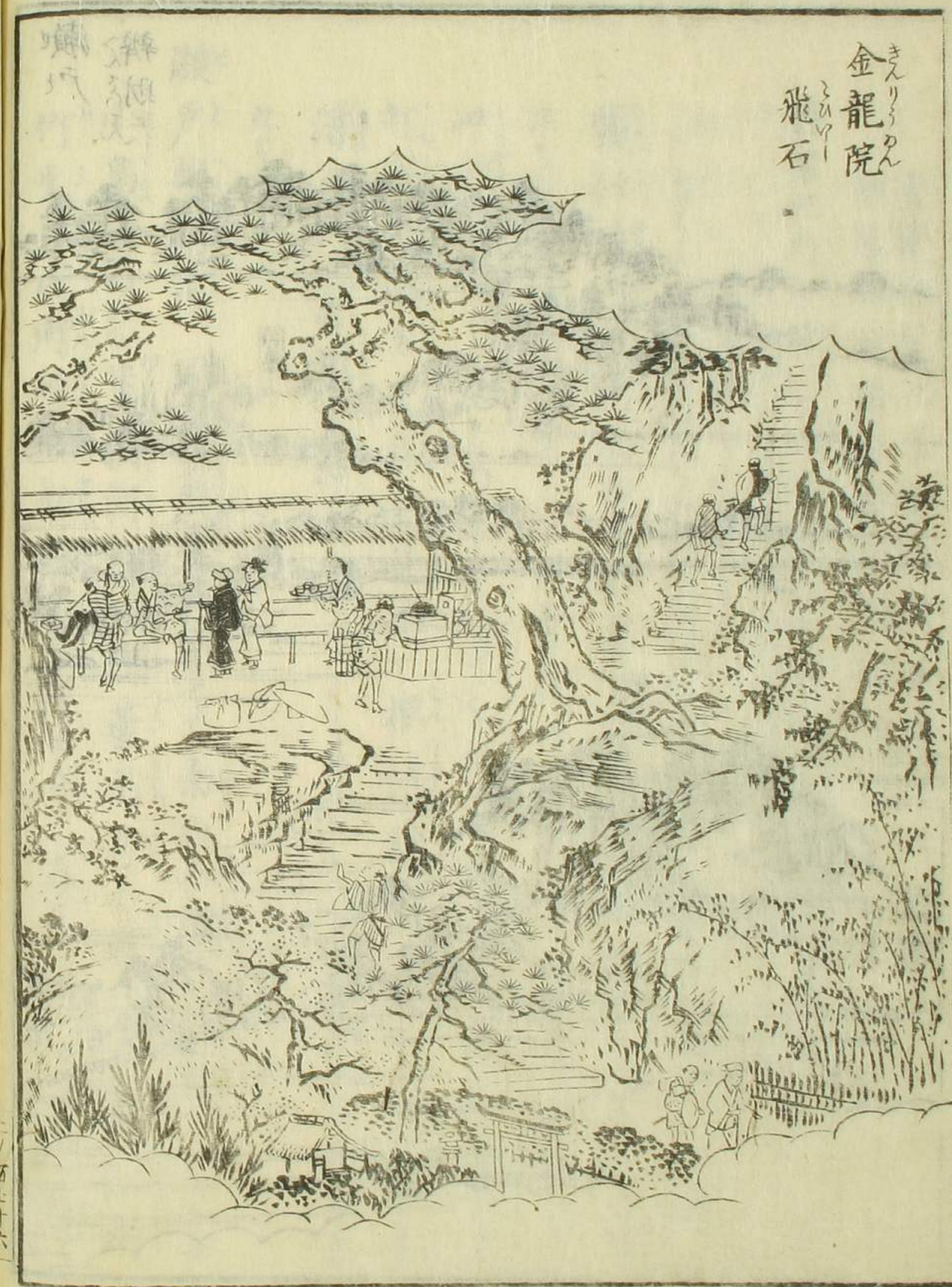
範頼墓

大寧寺

室永

瀬川

金龍院  
飛石



五十六



奇なり 同橋の下に福石と唱ふるものあり 金澤四石は林の諺に此石の

前より必有福の形と云はる

鎌倉記行

社のあり島とつとむる赤毛天を御清く清くハ  
才一才二の橋あり島のわたり木浦風ふあひに  
うらなむあつ橋をあらむ

浮菴

圓通寺 日輪山と號す同所二町半計西の方道より右

あり昔法相宗中より南都法隆寺に屬す今ハ天台宗に

改め江戶の東叡山に屬せり本寺を元三大師と安置す

岡山ハ法慧法印と号久世大和彦源廣之寺領を附

せり

東照大権現宮 山の上は鎮座なり郡官

昇天山金龍院 同所西南の方四町餘を隔て同一道の左

側の海岸あり世俗飛石山とも呼ばる禪宗に

鎌倉の建長寺に屬せり本寺正觀音座像二尺三寸行基

大士の作なり 鎌倉志小虚空藏菩薩と方崖元圭和尚を以て

岡山と云 和尚ハ檢約翁の法嗣なり

飛石 當寺後園の山の麓あり高さ一丈あり廣さ九尺と云

震動 此地と近頃の地震ハ

九覽亭跡 山の上あり曲折して登るつらある人の備はり亭の

八景小能見堂を加へて見ると名づくるなり

泥牛庵 金龍院の前路を隔て向側あり禪宗あり

鎌倉圓覺寺に屬す本寺ハ七寸計の唐佛の土面觀音の

像を安む此庵の開祖ハ圓覺寺の傳宗庵南山和尚講ハ

聖一國師の嗣法なり建武三年 中興ハ習甫玄道座原と号す

十月七日寂崇壽寺の開山あり 當菴の南一町半山の上古墳二基あり其一ハ海老名

長門守といふ人の墓あり此人泥牛庵あり自害









六浦  
上行寺





八卷小書写の人名簿一卷共九卷あり其文よ云く

御身の御経奉書写之人

- 一 卷 圓融律師 日源 安立坊の岡山
- 二 卷 良範坊 日秀
- 三 卷 正圓坊 日秀
- 四 卷 祐真坊 日秀
- 五 卷 良範坊 日秀
- 六 卷 衆寧阿 日秀
- 七 卷 衆寧阿 日秀
- 八 卷 理賢坊 日秀

奉造立 右願主 卿公沙門 妙光慈父母 妙法親父

奉讀誦妙法蓮華經五部

上良範公 正圓同心久讚

奉方便品 壽量品 陀羅尼品 各十扁宛讀誦之 自我謁

奉讀誦 十如是 自我謁 題目百廿反

奉唱題目一萬反 日源敬白

應永十三年丙戌十月十三日 御身ノ形相中老日法上人御作也

右六萬恒沙上首上行菩薩此御利益者尔住迹用本  
名四字初隨有喜形相身任御附屬妙法之要五字弘一  
天四海秘法良藥施萬人所嚴迷者也 廣爰流布因揅純就信  
心大施主等之成就所嚴迷者也

釋迦堂 本尊釋迦多寶四菩薩 眞言宗

六浦妙法日荷上人石塔 祖師堂と釋迦堂との間櫃の本にあり

上下との後人造り添ふものあり 中股の石の横面は文和二年六月  
十三日と彫りあり 妙法蓮華經の文和二年六月十三日と彫りあり  
此法俗稱を荒井平次郎光吉と号す 建長六年甲寅日蓮大士北徳中山に於て  
相州鎌倉へ歸らんといふ所の日富本常忍と号す 此六浦に著岸あり  
上人の随後に出家得度の後妙法と号す 文和二年癸巳六月十三日示寂を依り荷上と



蓋も肖像ハ中山法華寺あり又妙法の住り一田路も今の金竜院と米倉家陣屋の間  
記ハ妙法律門日荷正入六浦荒井の城主播磨守と号するとあれども城主との考へ  
す或ハ此妙法ハ杉田如法と号す北条時頼の臣ありと云あれども時頼逝る年歴を  
以て考ふるとその時代ありと云

寶篋印塔 祖師堂の前左の方の山の裾ありと高さ一丈二尺ありありと  
塔の四面ハ梵字を刻し横面を文治元年の號を刻せり

當寺往古真言宗なり一證  
按ハ米倉家陣屋の上より上行寺の後の山積ハ知足山龍華寺の旧地あり  
と云今ハ上野寺の隣の山上畑道の号ハ花藏院橋と号するものハ昔龍華寺  
支院花藏院の門前ハある一橋ありと云

鎌倉志ハ當寺什宝ニ位牌一枚あり日祐上人の筆の曼陀羅を  
彫其下に日祐上人一世の間引導せし人の法号俗名成

奉々應安三年と記せり又日祐上人の大曼陀羅及日蓮  
大士の消息等と存する由記されとも今當寺より傳へ

すと云

金剛山嶺松寺 同所三丁斗を隔て西南の方道より右側ハ

あり禪宗中々建長寺龍峯庵ハ屬をなすハ釋迦牟尼の

本像を安置せり関山を月窓和尚と号ハ

二日 儉約翁の法副なり傳へ云當寺ハ千葉介胤義の建立と

鎌倉志ハ瀬戸明神の鐘の銘ハ神主平胤義とあり神主ハ

平姓千葉氏なり此人の建立ハ千葉系圖ハ胤義と云

有り寺建立のより詳なりと云

六浦 東鑑ハ將軍家此地ハ遊覧のより往く見えと云

又同書ハ建久三年壬子二月廿四日丁卯武藏國六浦海辺ハ

北へ上徳五郎兵衛尉忠光を梟首す義盛是をなす

云々又鎌倉大草紙ハ應永四年正月廿四日小山若丸ハ

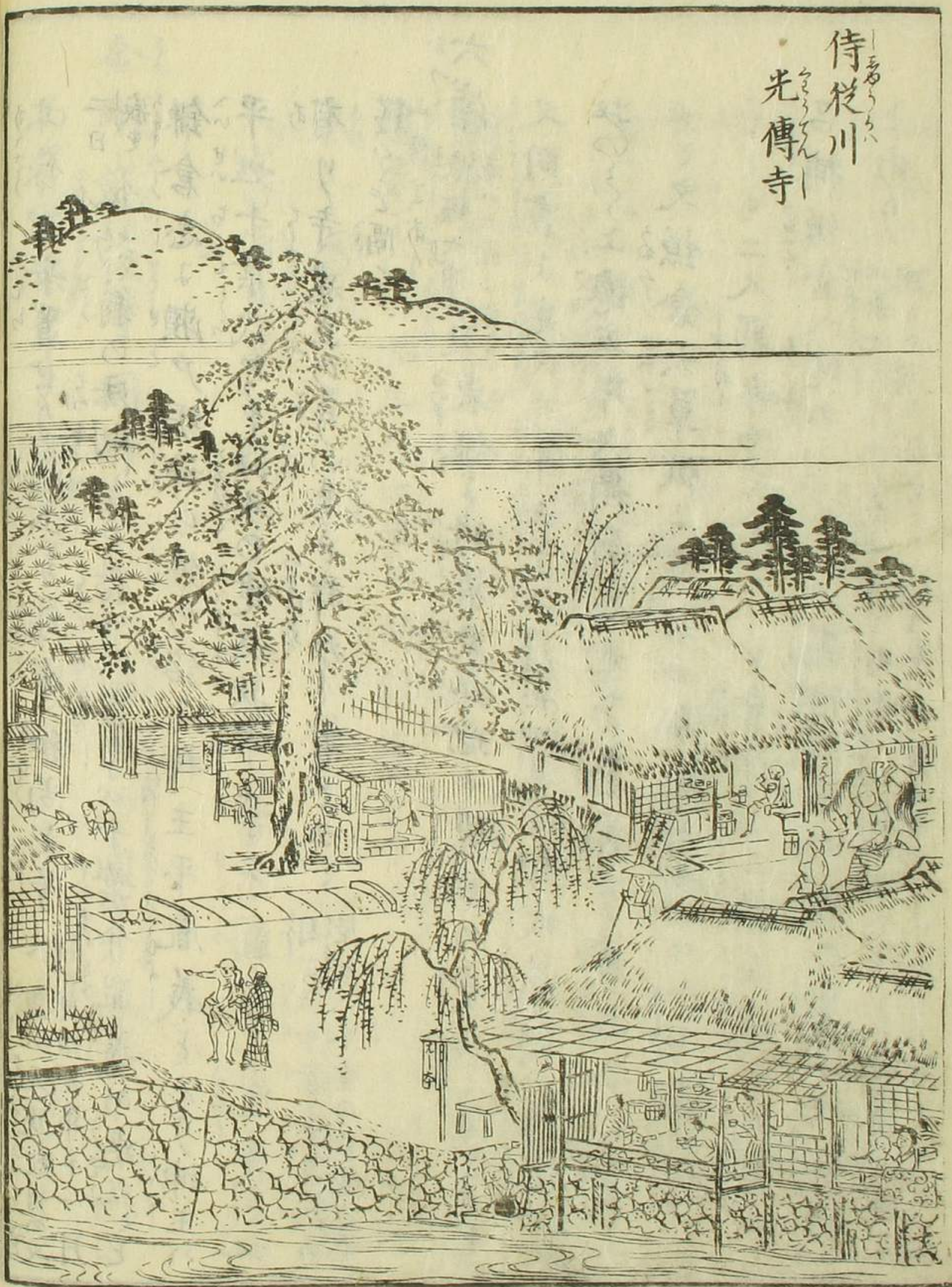
子との二人弱年ありと云

召捕鎌倉へ進上しと云

とあり

北条九代記ハ田村庄司則義ハ小山若丸ハ其子五歳と七歳





侍花川  
光傳寺



なりしを生捕く六面の沖に沈みそうけりともありく火く興あり  
永祿の頃ハ小田原北条此地を領し六浦木曾分の地ハ  
武田家へ付し同所大道分の地を龍源軒といふ小付し  
たゞ由分限帳よりんそくす

澤庵和尚鎌倉記行

あられハ三ヶ日鎌倉へ越す一坂を越れば  
野ありこゝあむむはの海とこゝハ  
こゝハ海生の子も此ありをん

よの海に面此海人のまの控ハ海を干溜りぬ 澤庵

海士のまをり此ありをん

六浦川 此地の道を横きりく流る小溝を云又此溝は架す  
小橋を云六浦橋と号くといふ

日光寺の辺あり光傳寺の辺連の地の字を川村と称し按ふ昔の水流の  
跡なるかかくと云ふなりん

日光山専光寺 嶺松寺より二町計を隔て南の方道よを

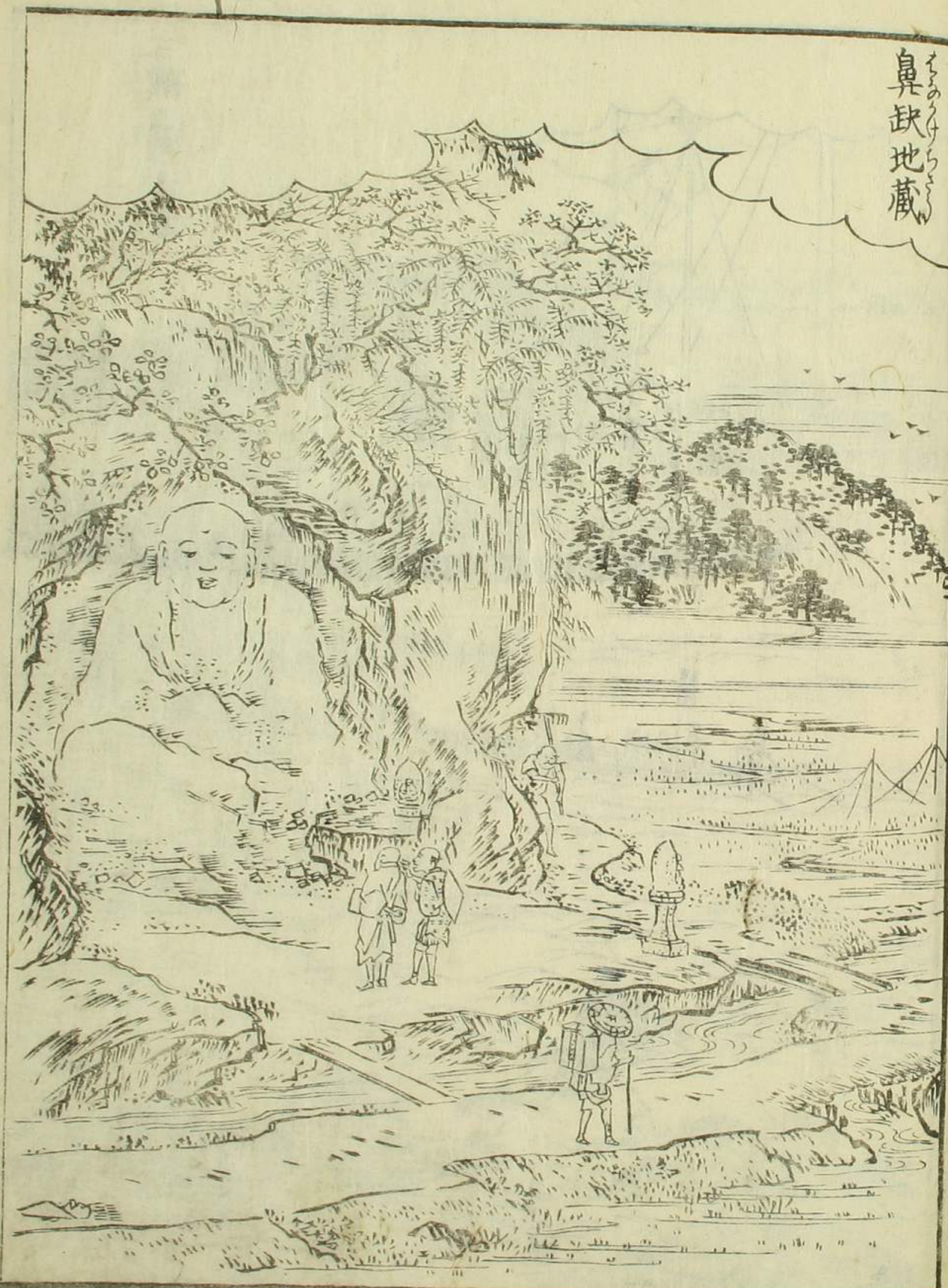
右側よあを浄土宗ゆり同所天然寺は属を本尊十一  
面観音ハ立像一尺計あり佛工春日の作なりと云相傳ふ  
照天姫の念持佛ゆり姫松葉ゆり燻らむ一時身代  
り立と云ふと云傳へり寺の後の方ハ日光権現の宮あり  
故ハ山号と云

油堤 同一寺の後の田圃を隔てず町を隔て西の方小續き

ゆる山を油堤と云由土人云も 鎌倉志中を傳光寺の 里諺に  
よ照天姫の乳母侍従といふもの 姫の粧具を携へ此の連  
尋来といふと云 姫の形方あまをさるを歎き悲しと彼粧  
具を捨く終は此の川へ身を沈りてし 故ハ号とす

侍 後川 川村と大間村との中間光傳寺の前を流る川の  
と云り





鼻缺地藏

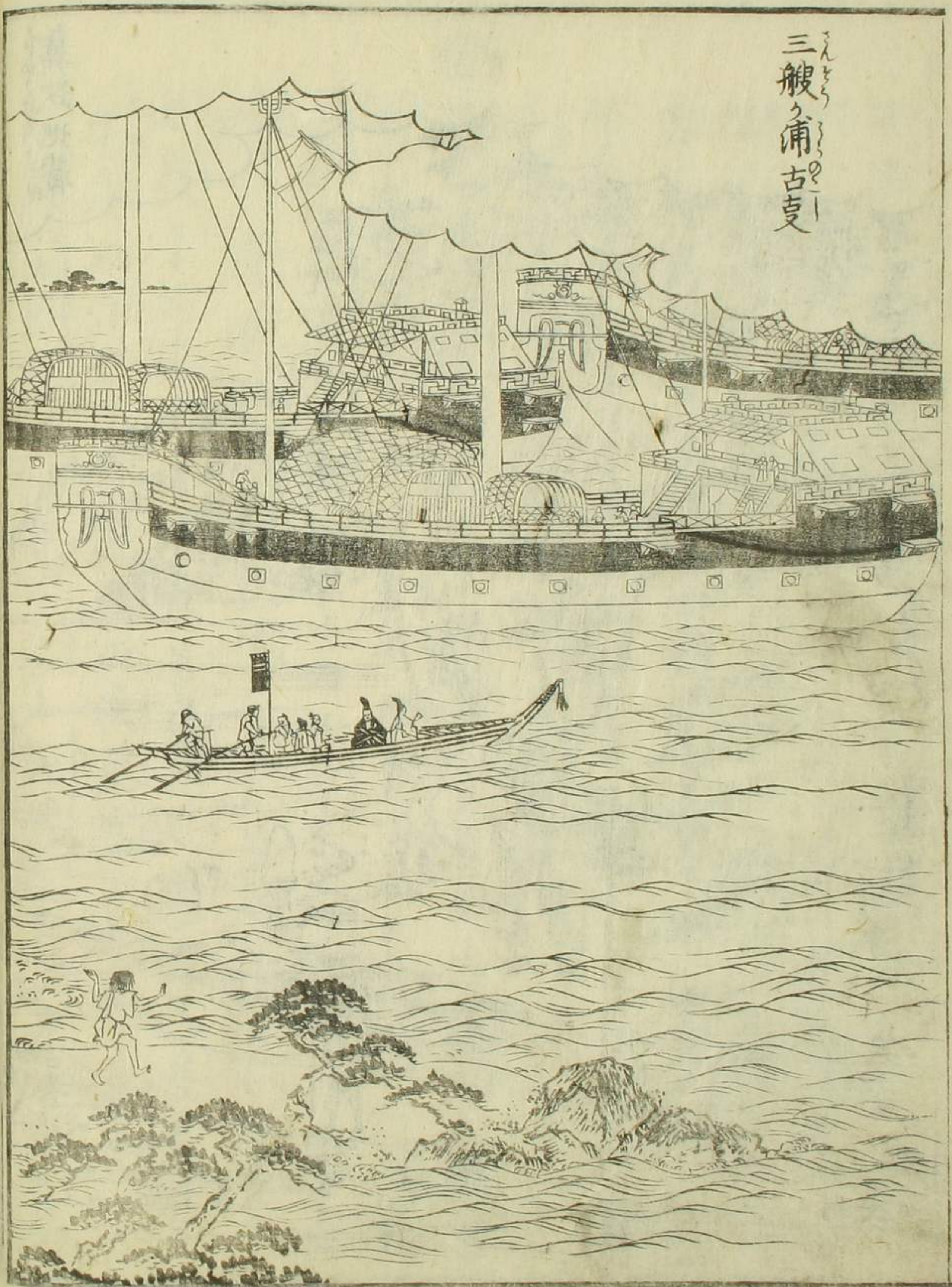
下流を以て水源を鎌倉より發し、未だ三艘村より盛濱へ  
 如く海湾を會し、瀬戸街道へ横らるる架を橋と侍從  
 橋と号名義ハ油堤の条下よ云々此橋を渡りて右の  
 道ハ武蔵相模の國境地蔵の辻へ如く鎌倉へ往還の道  
 なる南の道ハ三浦三崎への通路なる左の川傍の道ハ  
 三艘浦又相州境浦郷等への道なり

常見山光傳寺 同所北の端道より右側侍從川に傍る

あま浄土宗ありて鎌倉光明寺に屬す阿彌陀  
 如来の本像を立像中より四尺許ありて作者あま  
 開山ハ得蓮社忍荅靈傳上人と号門の内右の方  
 地蔵堂ありて本尊地蔵菩薩ハ立像六尺許ありて  
 運慶の作ありと云地福山蔵光寺と号ハ

界地藏 土俗鼻缺地藏と稱し光傳寺より九丁ありて





三艘の浦古吏



西の方鎌倉道の傍にあり巨巖の壁立し一所に  
此の像を鑄せし  
此の鼻缺地蔵と云  
此所ハ武蔵相摸の  
國界中一峰村と号す

三艘浦 六浦の南向三艘村にあり永祿九年の春唐船

三艘此浦に着岸せし故に名付くところ鎌倉志云其時  
舟に載来り一切経及び青磁の香爐花瓶等を皆

称名寺に傳へりありと云  
界地藏あり 往古ハ

海蔵山太寧寺 三艘浦の東瀬崎村にあり

布金の道場中一薬師寺と号し真言宗なり一蒲  
御曹司源範頼公生害あり後其法号を採り太寧寺

と号し千光國師開山とあり一禪林に轉し鎌倉建長

寺の属寺とす  
薬師寺の号の廢せんを歎き  
本為薬師如来立像丈五尺あり十二神將の像ハ三尺あり

あり共運慶の作鎌倉志に當寺勸進帳を引く

云往古 伏見帝永仁年間此村に貧女あり父母の忌

日は當りし時佛に供養し  
佛に供養し  
佛に供養し  
佛に供養し

卷子とて賣り佛餉に備へんと然れども  
容易に買人なり或時童子一人来り是を買ふに價を

以て父母の忌日此供養の料に充てり佛前小至る小  
件の多きを多くあり依り知ぬ如来貧女に純孝の志を

感し自介以来一を薬師と云とあり  
佛に宿願のあり

時其祈願成就し  
報賽とす  
定門神儀裏に範頼公建久四癸丑年八月と

蒲冠者範頼靈牌  
堂神は置其碑面は大寧寺殿道悟大禪

範頼墓 本堂の後の山麓にあり高さ二尺六七寸あり  
按小異本源平盛衰記に範頼伊豆の修善寺にあり景時

又頼朝子申して伊豆小越景時父子三人五百餘騎を修善寺に押寄せ



範頼ハ或坊ノ小神ノ大口計ニシテ一ノ差詰引結散ク小射ハハ  
 其後景時煙ヲ静メ範頼ノ焼首取リテ倉小持テ終朝朝子えせま  
 あり鎌倉志云く後を此地小華一を村議とあり

題 太寧寺六首

絶海

寺樓一抹晚江煙

朝送鐘聲落釣船

殘曉香消拍子煙

間鷗容我社中眠

聞君去借江村宿

老來無夢越漁船

六浦遙連三浦煙

一夜鷗邊看月眠

興來撐棹窮佳處

越風隨岸幾移船

山街夕日水籠煙

月落前灣猶未眠

盖世功名身外事

雪後蘆花月滿船

衲衣懶惹御爐煙

幾人能得一菴眠

晚興遲留江上寺

還愛華亭載月船

功名盖世畫交煙

三山翠映白頭眠

一錫歸來楓外寺

失墜危於灑灑船

當寺書院北小瀨

白沙翠竹閉門眠

勝れし寺寶は範頼自筆比古奇の懸幅及び陣中用

のしとらりと云長刀一振あり

宮根推現社瀨崎の東室本村はあり又民家の間は犬樟の

老樹あり

雀浦同所の南北出崎を以菅神の小祠あり故は土人ハ

天神崎とも稱を此地の海灣と浦の江と云

中着巖 同所絶壁の下はあり大二三間四方に盤石あり潮尽

根附巖 同所百歩を隔て西南の於此崖下はありと云

前比の比着岩比あり

浦川の湊とつる浦の浦をわたりて

道與 准石

回國雜記

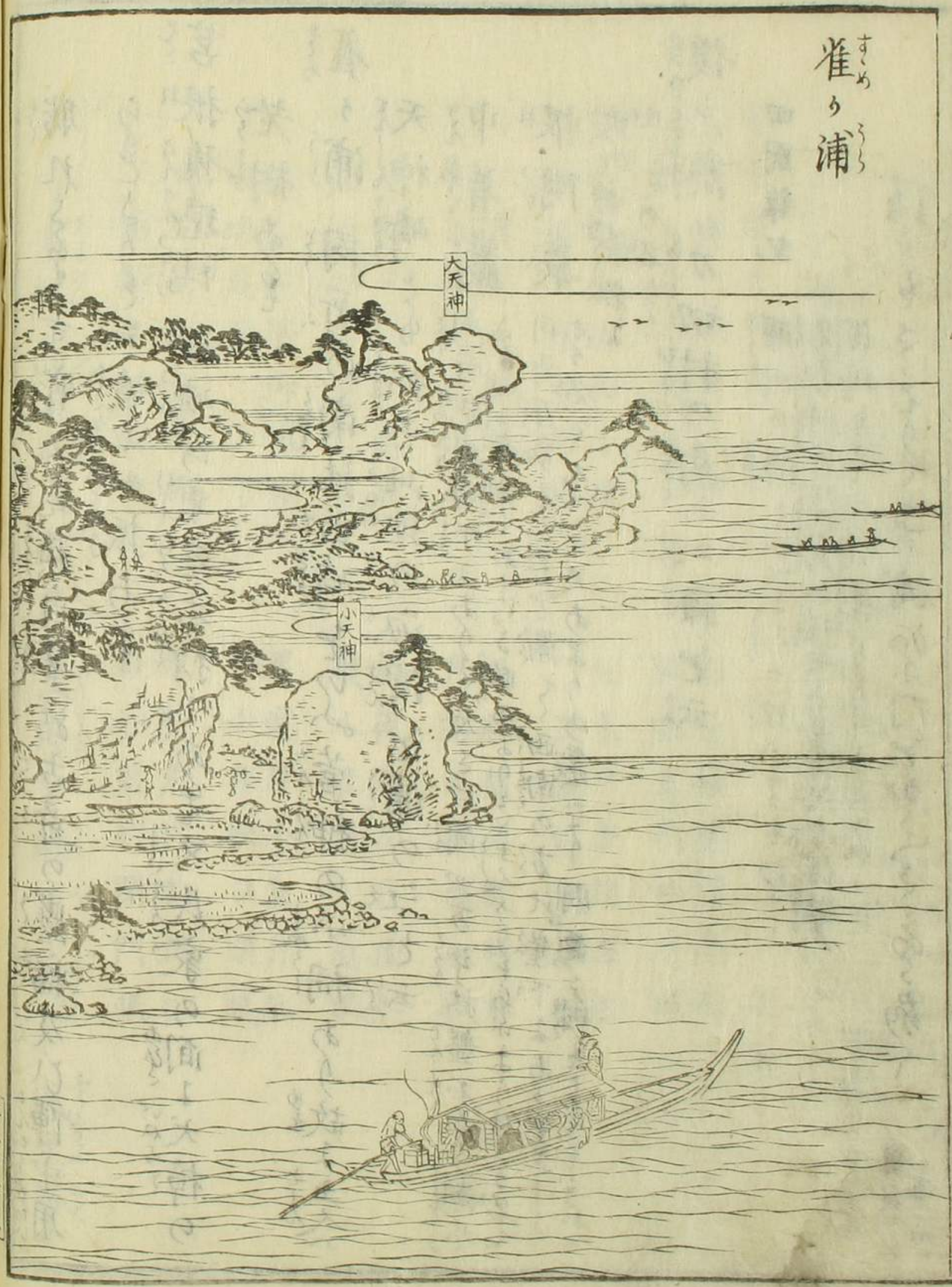
搜戸をさすりて浦の浦をわたりて  
 浦川の湊とつる浦の浦をわたりて  
 浦川の湊とつる浦の浦をわたりて

道與 准石





すめ  
雀  
り  
浦





烏帽子島 同所東の出崎の小島との形状烏帽子に似

故小名とせり

鎌倉記行 志保一海とのゆかりとせしむる

終夕小浪を巻ぬる烏帽子の沖より吹き風形やれ海庵

夏島 同東にあり長三町餘を横一丁計此小島なり

里人云く玄冬の雪とて積るなりと云ふ

鎌倉記行 夏島と名のなりりる時ハある

三冬ふし降白雪たぬぬとや多雪の名や消らん 海庵

猿島 夏島の東南にあて五丁四方をあり

裸島 同所二三町を離れる小島なり

按深庵和尚の法念記に笠島とて名と挙ぐる詠小

かきしやあそとあそ夕時ぬぬぬを人ありと

かくあれともは地は笠ああるとありはあそくち猿島裸島二島の  
中と突くくわすくかきしひるあそんを

甲香 此れハ金澤の名産なり兼好法師の徒然草に甲

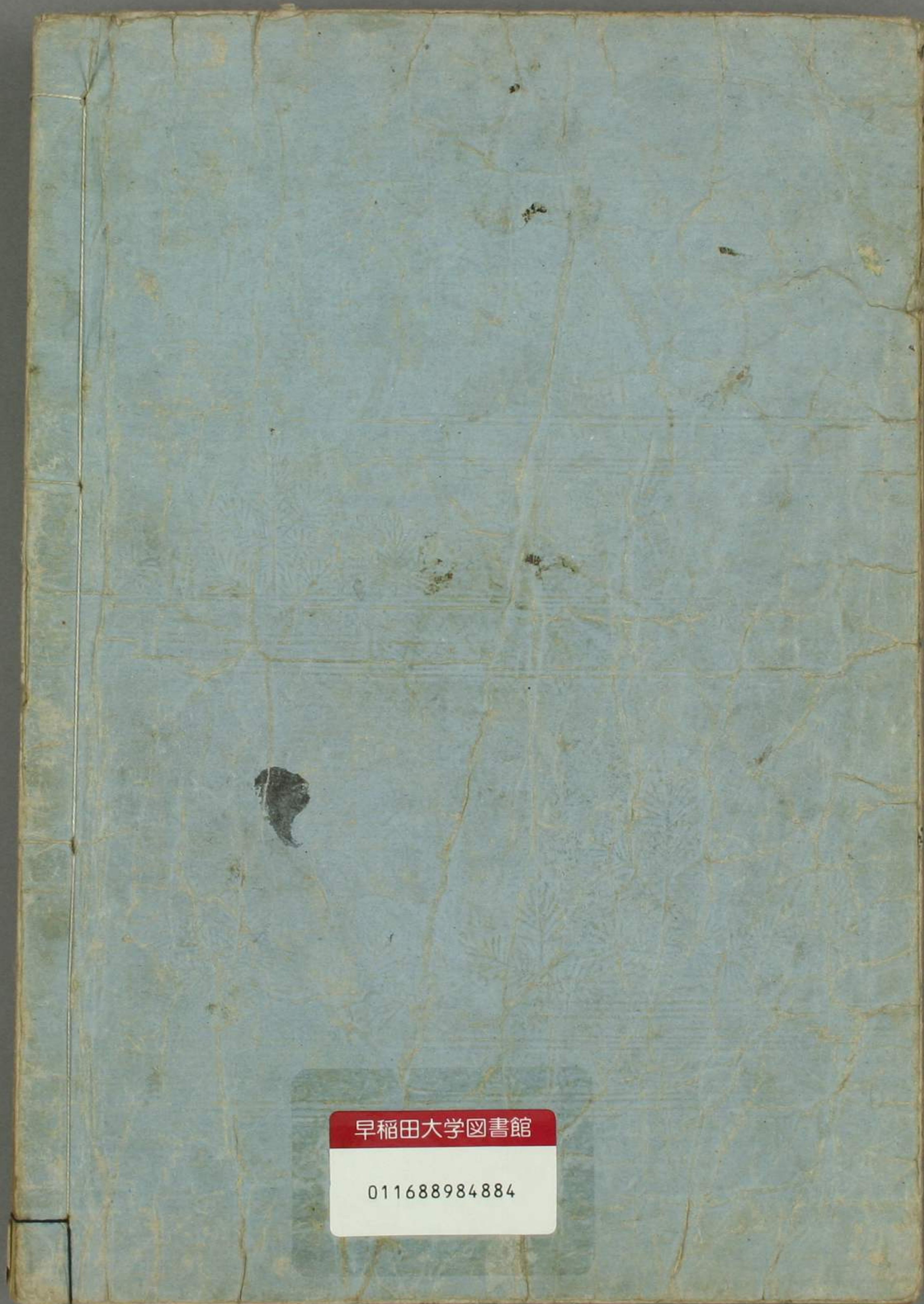
香ハ螺貝の様なるうしく口の程は細長ゆしく出

貝の蓋なり武蔵國金澤と云浦ありしを所の者ハ

及ふくうとまうしはくをひしとあり野槌小今金澤

ゆき尋ははつといひまははぬとも云と云





早稲田大学図書館

011688984884